

PENTAX®

Z-1P

QUARTZ
DATE

使用説明書



カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

123ページの「カメラを安全にお使いいただくために」は、必ず最初にお読みください。

このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Z-1Pは、撮影途中でも自由にパノラマ／標準撮影の切り替えができます。また、15種類のペンタックスファンクションやパワーズーム、プログラム自動露出からのワンタッチでのシャッター優先、絞り優先への切り替えとプログラムへの復帰など自由に撮影者の意図を割り込ませることができます。

さらに、専用のパワーズームレンズとの組み合わせによるオート露光間ズームや撮影倍率の指定、焦点距離の設定など高精度なインテリジェントパワーズームやストロボ光の光量補正、ストロボ光のブラケットティングなど、充実したストロボ機能も備えたオートフォーカス一眼レフカメラです。

その他、以下のような特徴を備えています。

- ・ 動体予測
- ・ 9回までの多重露出
- ・ 8分割測光を含め、3つの測光モードを自由に選択可能。
- ・ ユーザーポジションへのユーザーセット機能
- ・ マニュアル露出でも使用できるオートブラケットティング撮影

各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただくことができます。

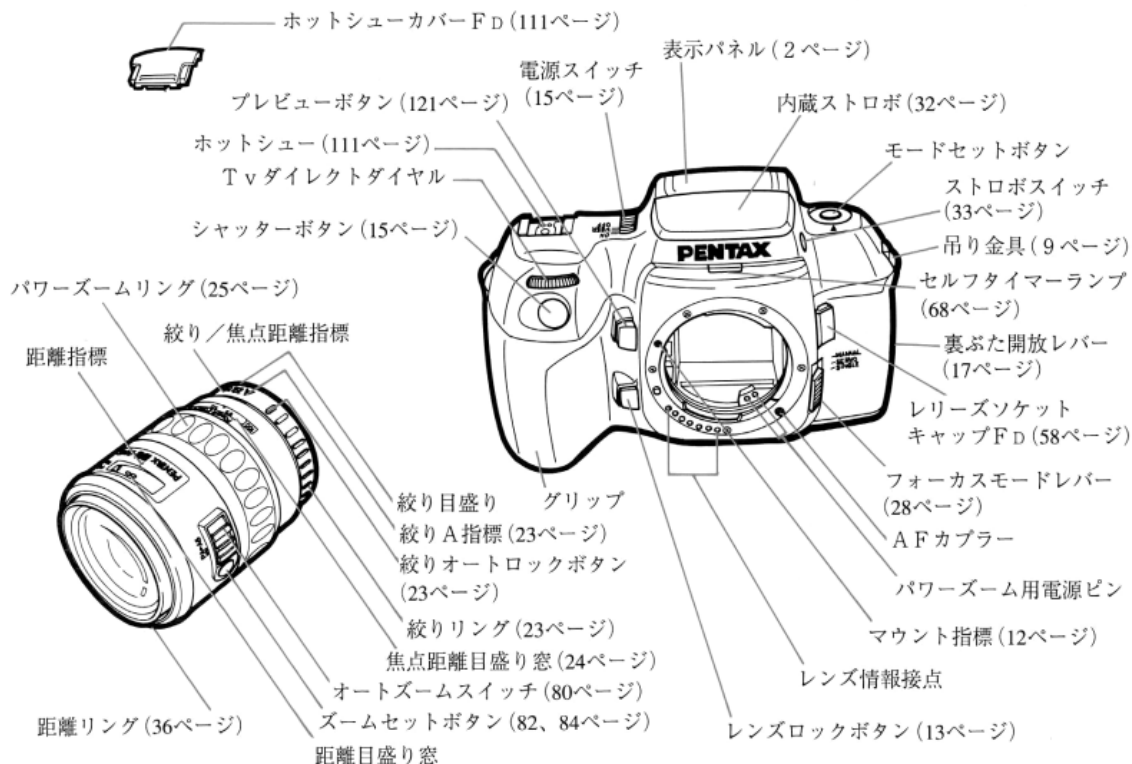
記号について

操作の方向	←
自動的に動きます	←...→
注目してください	○
点滅します	★
正しい	○
間違い	×



各部の名称を開いて見ながらお使いください。

各部の名称①



こんな写真を撮るには？



ピント関係

画面の中央にない物にピントを合わせたい	31
ピントの合う範囲を変えて写真を撮りたい	54
カメラを覗いて、ピントの合う範囲を確認したい	121



ストロボ関係

暗いところで写真を撮りたい	32
ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい	92
逆光の人物の顔を明るく写したい	94
夜景をバックに人物を撮影したい	95
ストロボの光の量だけを変えたい	97
結婚式など広い室内で写真を撮りたい	111



ズーミング関係

写したい物の大きさを大きくしたり小さくしたりしたい	24
自分が決めた焦点距離で常に撮影をしたい	81
動いているものを常に同じ大きさで撮影したい	83
シャッターが開いている間にズーミングをして 特殊な効果を出したい	86



露出[明るさ]関係

カメラ任せでなく明るさを自由に変えて写真を撮りたい	48,62
逆光の人物の顔を明るく写したい	62,94
明るさを変えた写真を3枚連続して撮りたい	72



人物撮影関係

逆光の人物の顔を明るく写したい	62,94
自分自身も写真に写りたい	67
夜景をバックに人物を撮影したい	95



風景撮影関係

夜景を撮りたい	57
夜景をバックに人物を撮影したい	95



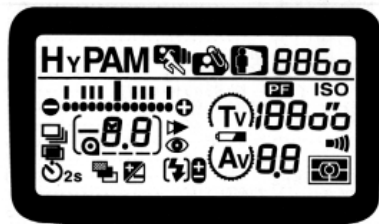
その他

写真に日付を入れたい[消したい]	16
動きの速いスポーツ写真を撮りたい	52
動きのあるものを連続的に撮影したい	64
フィルムの同じ枚数の部分に重ねて撮影をしたい	65
三脚にカメラを固定して写したい物に近づいて撮りたい	69
焼き増しの替わりに同じような写真を続けて3枚撮りたい	70
横長のダイナミックな写真[パノラマ]を撮りたい	77

表示パネルの表示ガイド	2
・表示パネルの表示ガイド	2
・表示パネルの表示ガイド	3
・表示パネルの表示ガイド	4
・表示パネルの表示ガイド	5
・表示パネルの表示ガイド	6
・表示パネルの表示ガイド	7
・表示パネルの表示ガイド	8
・表示パネルの表示ガイド	9
・表示パネルの表示ガイド	10
・表示パネルの表示ガイド	11
・表示パネルの表示ガイド	12
・表示パネルの表示ガイド	13
・表示パネルの表示ガイド	14
・表示パネルの表示ガイド	15
・表示パネルの表示ガイド	16
・表示パネルの表示ガイド	17
・表示パネルの表示ガイド	18
・表示パネルの表示ガイド	19
・表示パネルの表示ガイド	20
・表示パネルの表示ガイド	21
・表示パネルの表示ガイド	22
・表示パネルの表示ガイド	23
・表示パネルの表示ガイド	24
・表示パネルの表示ガイド	25
・表示パネルの表示ガイド	26
・表示パネルの表示ガイド	27
・表示パネルの表示ガイド	28
・表示パネルの表示ガイド	29
・表示パネルの表示ガイド	30
・表示パネルの表示ガイド	31
・表示パネルの表示ガイド	32
・表示パネルの表示ガイド	33
・表示パネルの表示ガイド	34
・表示パネルの表示ガイド	35
・表示パネルの表示ガイド	36
・表示パネルの表示ガイド	37
・表示パネルの表示ガイド	38
・表示パネルの表示ガイド	39
・表示パネルの表示ガイド	40
・表示パネルの表示ガイド	41
・表示パネルの表示ガイド	42
・表示パネルの表示ガイド	43
・表示パネルの表示ガイド	44
・表示パネルの表示ガイド	45
・表示パネルの表示ガイド	46
・表示パネルの表示ガイド	47
・表示パネルの表示ガイド	48
・表示パネルの表示ガイド	49
・表示パネルの表示ガイド	50
・表示パネルの表示ガイド	51
・表示パネルの表示ガイド	52
・表示パネルの表示ガイド	53
・表示パネルの表示ガイド	54
・表示パネルの表示ガイド	55
・表示パネルの表示ガイド	56
・表示パネルの表示ガイド	57
・表示パネルの表示ガイド	58
・表示パネルの表示ガイド	59
・表示パネルの表示ガイド	60
・表示パネルの表示ガイド	61
・表示パネルの表示ガイド	62

・表示パネルの表示ガイド	63
・表示パネルの表示ガイド	64
・表示パネルの表示ガイド	65
・表示パネルの表示ガイド	66
・表示パネルの表示ガイド	67
・表示パネルの表示ガイド	68
・表示パネルの表示ガイド	69
・表示パネルの表示ガイド	70
・表示パネルの表示ガイド	71
・表示パネルの表示ガイド	72
・表示パネルの表示ガイド	73
・表示パネルの表示ガイド	74
・表示パネルの表示ガイド	75
・表示パネルの表示ガイド	76
・表示パネルの表示ガイド	77
・表示パネルの表示ガイド	78
・表示パネルの表示ガイド	79
・表示パネルの表示ガイド	80
・表示パネルの表示ガイド	81
・表示パネルの表示ガイド	82
・表示パネルの表示ガイド	83
・表示パネルの表示ガイド	84
・表示パネルの表示ガイド	85
・表示パネルの表示ガイド	86
・表示パネルの表示ガイド	87
・表示パネルの表示ガイド	88
・表示パネルの表示ガイド	89
・表示パネルの表示ガイド	90
・表示パネルの表示ガイド	91
・表示パネルの表示ガイド	92
・表示パネルの表示ガイド	93
・表示パネルの表示ガイド	94
・表示パネルの表示ガイド	95
・表示パネルの表示ガイド	96
・表示パネルの表示ガイド	97
・表示パネルの表示ガイド	98
・表示パネルの表示ガイド	99
・表示パネルの表示ガイド	100
・表示パネルの表示ガイド	101
・表示パネルの表示ガイド	102
・表示パネルの表示ガイド	103
・表示パネルの表示ガイド	104
・表示パネルの表示ガイド	105
・表示パネルの表示ガイド	106
・表示パネルの表示ガイド	107
・表示パネルの表示ガイド	108
・表示パネルの表示ガイド	109
・表示パネルの表示ガイド	110
・表示パネルの表示ガイド	111
・表示パネルの表示ガイド	112
・表示パネルの表示ガイド	113
・表示パネルの表示ガイド	114
・表示パネルの表示ガイド	115
・表示パネルの表示ガイド	116
・表示パネルの表示ガイド	117
・表示パネルの表示ガイド	118
・表示パネルの表示ガイド	119
・表示パネルの表示ガイド	120
・表示パネルの表示ガイド	121
・表示パネルの表示ガイド	122
・表示パネルの表示ガイド	123
・表示パネルの表示ガイド	124
・表示パネルの表示ガイド	125
・表示パネルの表示ガイド	126
・表示パネルの表示ガイド	127
・表示パネルの表示ガイド	128
・表示パネルの表示ガイド	129
・表示パネルの表示ガイド	130
・表示パネルの表示ガイド	131
・表示パネルの表示ガイド	132
・表示パネルの表示ガイド	133
・表示パネルの表示ガイド	134
・表示パネルの表示ガイド	135

表示パネルの表示ガイド

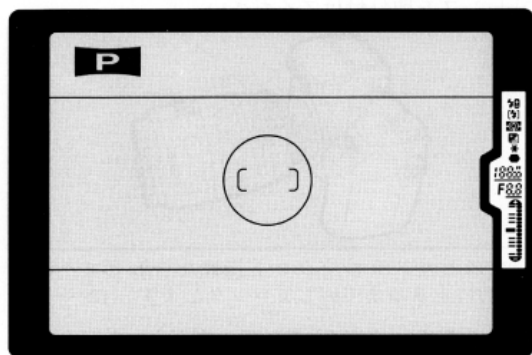


HyP	ハイパープログラム自動露出表示(46ページ)
P	プログラム自動露出表示(23ページ)
A(Av)	絞り優先自動露出表示(54ページ)
ISO	フィルム感度表示(I S O)(110ページ)
TV	Tvダイレクトダイヤル表示
A(Tv)	シャッター速度優先自動露出表示(52ページ)
HyM	ハイパーマニュアル露出表示(48ページ)
1/8000	イメージサイズ指定モード表示(83ページ)
32	ズームクリップモード表示(81ページ)
8000	露光間ズームモード表示(86ページ)
32	シャッター速度表示
32	絞り表示
32	測光モード表示(40ページ)

2s	セルフタイマー表示(67ページ)
2s	2秒セルフタイマー表示(69ページ)
2s	トリプルセルフタイマー表示(70ページ)
2s	後幕シンクロ表示(93ページ)
2s	赤目軽減表示(92ページ)
2s	光量補正表示(97ページ)
2s	内蔵ストロボ情報表示(32ページ)
2s	露出補正表示(62ページ)
2s	A vダイレクトダイヤル表示
2s	ペンタックスファンクション表示(102ページ)
2s	電子音有効表示(104ページ)
2s	電池消耗表示(11ページ)
2s	フィルム枚数、多重露出回数表示(19、65ページ)
2s	露出補正、光量補正值表示(62、97ページ)
2s	ブラケット補正值表示(73ページ)
2s	フィルム状態表示(19ページ)
2s	1コマ撮影表示(63ページ)
2s	連続撮影表示(64ページ)
2s	ブラケット表示(72ページ)
2s	多重露出表示(65ページ)

表示パネルの照明について

露出補正ボタン  と測光モード切り替えボタン  を同時に押すと、表示パネルを約10秒間照明することが出来ます。



- [] : オートフォーカスフレーム (A F フレーム) (29ページ)
- [M] : 内蔵ストロボ情報表示 (32ページ)
- [] : 外付けストロボ情報表示 (111ページ)
- 8000 : Tv表示 (シャッター速度情報)
- 8 : 光量補正表示 (97ページ)
- [] : 露出補正表示 (62ページ)
- * : メモリーロック表示 (43ページ)
- : 合焦表示 (ピント情報) (29ページ)
- F3.2 : Av表示 (絞り情報)
- [] : パノラマシグナル (77ページ)
- [] : バーグラフ (48、59、72、97ページ)
- [] : 測光モード表示 (40ページ)

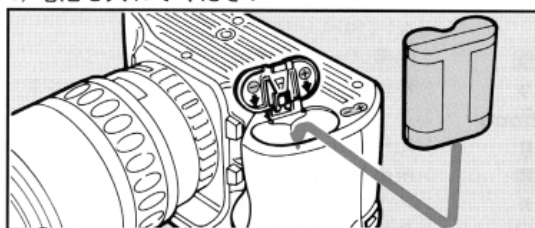
パノラマシグナル [] について
標準撮影のときは、パノラマシグナル [] が消えていることを確認してください。

- ※ ファインダー内の横線は、パノラマ撮影をする際のパノラマ視野枠になります。
- ※ オートフォーカスフレームの回りの円は、スポット測光の範囲です。
- ※ サービスサイズのカラープリント [パノラマプリントを含む] では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

4

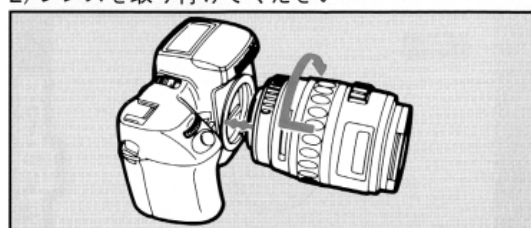
使い方は簡単です！ (とにかく撮影してみたい人のために)

1) 電池を入れてください



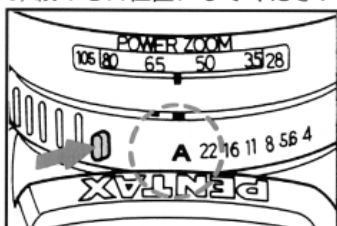
電池ぶたを開いて、リチウム電池 **2CR5** 1本をカメラの表示に合わせて入れます。(10ページ)

2) レンズを取り付けてください



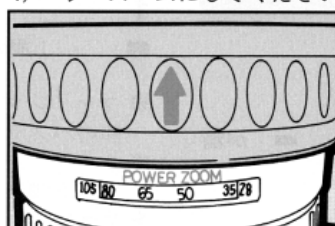
レンズとカメラのマウント指標を合わせてハメ込み、右に止まるまで回してロックします。(12ページ)

3) 絞りをA位置にしてください



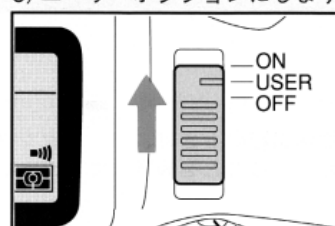
レンズの絞りオートロックボタンを押しながらリングを回し、絞りをA位置に合わせます。(23ページ)

4) パワーズームにしてください



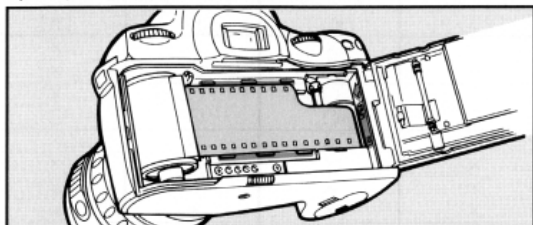
レンズの**POWER ZOOM**が見える状態にし、オートズームスイッチを **[P]** にします (25ページ)。パワーズームはF Aズームでのみ可能です。

5) ユーザーポジションにします



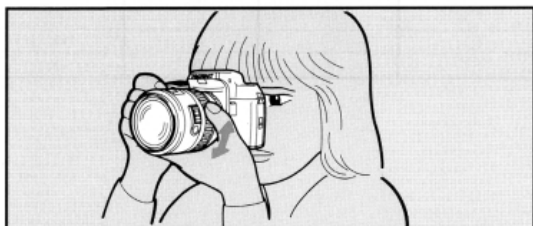
電源スイッチを**USER** (ユーザーポジション) に合わせます。(15ページ)

6) フィルムを入れてください



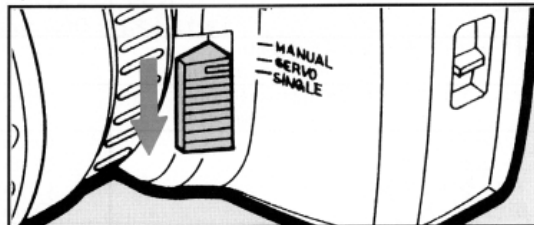
カメラの裏ぶたを開けてフィルムを入れ、先端マークを合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1コマ目まで巻き上がります。(17ページ)

8) パワーズームで構図を決めてください



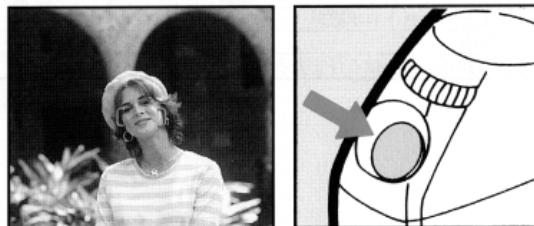
ファインダーを覗きながらズームリングを回して、写したいものを好みの大きさにしてください。(24ページ)

7) オートフォーカスにしてください



フォーカスモードレバーを「SINGLE」に合わせます。(28ページ)

9) ピントを合わせて撮影してください



写したいもの(被写体)をAFフレーム「C」に合わせて、シャッターボタンを静かに押して撮影します。(29ページ)

6

Z-1Pと各種レンズを組み合わせたときの機能

機能	レンズ [マウント名]	F Aレンズ [K _{AP} , K _{AP2}]	F レンズ [K _{AF}]	A レンズ [K _A]	M レンズ [K]	S レンズ [P]
オートフォーカス(レンズ単体使用) (A Fアダプター1.7×使用)		○ —	○ —	× ○ 注1	× ○ 注1	× ×
マニュアルフォーカス(F I表示の利用)注2 (マウント面の利用)		○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	× ○
パワーズーム		○ 注4	×	×	×	×
ズームクリップ		○ 注4	×	×	×	×
イメージサイズ指定		○ 注4	×	×	×	×
露光間ズーム		○ 注4	×	×	×	×
ハイパープログラム自動露出		○ 注5	○ 注5	○	×	×
プログラム自動露出		○ 注5	○ 注5	○	×	×
絞り優先自動露出		○	○	○	○ 注6	○ 注6
シャッター優先自動露出		○ 注5	○ 注5	○	×	×
ハイパーマニュアル露出		○	○	○	○ 注6	○ 注6
プログラムTTLオートストロボ撮影		○ 注5	○ 注5	○	×	×
TTLオートストロボ撮影		○	○	○	○	○
分割測光		○	○	○	×	×
絞りA位置以外の絞り目安表示		○	○	×	×	×

- 注1：レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。[AFアダプターの説明書をご覧ください。]
 注2：ファインダー内の合焦表示  に従って行なう手動のピント合わせ。[FI=フォーカスインジケーター]
 注3：レンズの開放F値がF5.6および、それより明るいレンズのみ。
 注4：K_{AF2} マウントレンズのみ。
 注5：F・FAソフト85mmF2.8及びFAソフト28mmF2.8を除く。
 注6：絞りにA位置がありませんので、Avダイレクトダイヤルでの絞りセットでは使用できません。
 注7：分割測光を選択しても、中央重点測光になります。

マウント名称について

オートフォーカス用のレンズには、K_{AF2} と K_{AF} の2つのマウントがあります。K_{AF2} マウントはK_{AF} マウントに電源ピンを追加し、パワーズームを可能にしたマウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

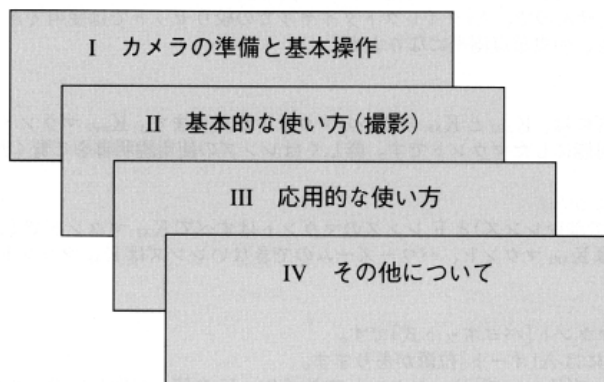
レンズ名称とマウント名称について

FAの単焦点レンズ(ズームでないレンズ)とFレンズのマウントはすべてK_{AF} マウントです。FAズームレンズは、パワーズームが可能なレンズはK_{AF2} マウント、パワーズームのできないレンズはK_{AF} マウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

- ・A、F、FAレンズはKマウント[バヨネット式]です。
- ・A、F、FAレンズの絞りにA[オート]位置があります。
- ・旧タイプのねじ込み式レンズ[Sレンズ]は、マウントアダプターKを使って取り付けられます。

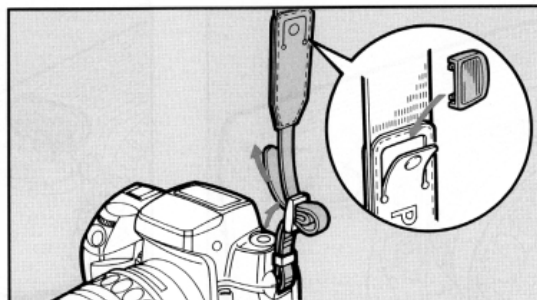
説明書の構成について

説明書を効果的にご利用いただくために、
この説明書は次のように分けられています。



- とにかくZ-1Pで撮影してみたい方は、「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方(撮影)」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

I カメラの準備と 基本操作



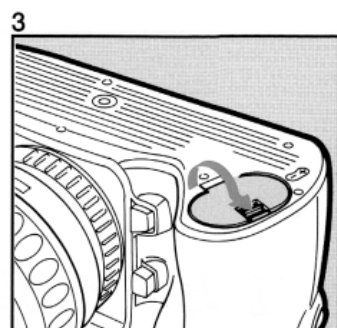
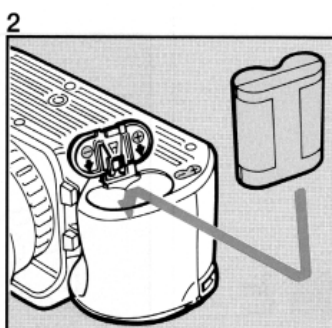
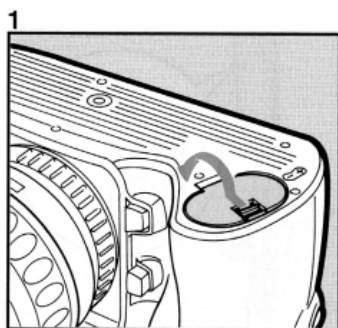
カメラの準備と基本操作

図のように、ストラップを取り付けてください。

- * ストラップの先端は、留め具の内側になるように通すと、しっかり取り付けられます。
- * ストラップのポケットは、ファインダーキャップ、レリーズソケットキャップ、ホットシューカバーなどの小物入れとしてご利用ください。

10

(2) 電池を入れます



1. 図のように、電池ふたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ふたを開きます。
2. 電池の金属接点側を先に、カメラの＋表示に合わせて電池を入れます。
3. 電池ふたを押さえたまま、電池ふた開放レバーを元に戻して電池ふたを閉じてください。

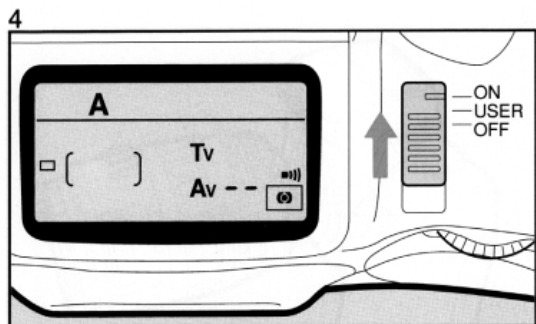
- * Z-1 Pは電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池 **2CR5** 同等品を1個入れます。Z-1 Pには、サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約80本
ストロボ撮影（使用率50％）	約25本
ストロボ撮影（使用率100％）	約14本
バルブ露出時間	約6時間

新品のリチウム電池 **2CR5** で、当社試験条件による。（24枚撮りフィルム、常温）

- * 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- * 同梱されている電池はサンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。



4. 電源スイッチをユーザーポジション **USER** または **ON** にし、図のように表示パネルに表示がすることを確認してください。

- * レンズが取り付けられているときは、別の表示が出る場合があります。
- * 123ページの「電池について」もお読みください。
- * 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- * 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

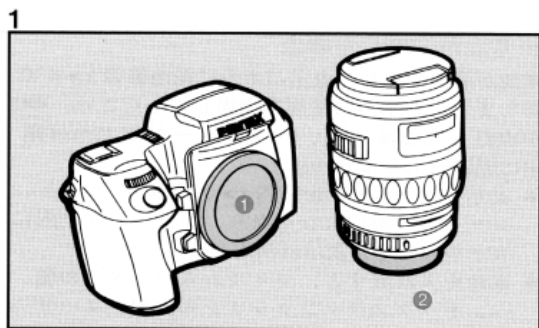
※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、表示パネルに電池警告 が点灯します。お早めに電池を交換してください。 が点灯したままでも、シャッターが切れば露出に問題はありません。

- * 表示パネルの電池警告 が点滅になると、シャッターが切れなくなり、ファインダー内に表示中のLCD表示は消灯します。
- * 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値、ペンタックスファクションの内容、ユーザーポジションへのユーザーセット機能の内容およびISO感度の設定を除いて、Z-1Pの諸設定は工場出荷時の初期設定に戻ります。
- * 長時間カメラを使用していない場合、新品電池に交換しても表示パネルに電池消耗警告 が表示されることがあります。電源を入れ、シャッターボタンを半押ししてみてください。 の表示が消えれば、そのままお使いになれます。

12

(3) レンズを取り付けます



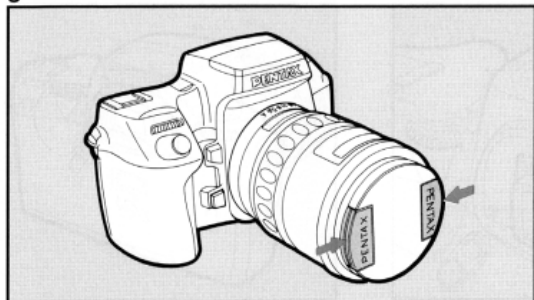
1. 図のように、①のボディカバーと②のレンズ後カバーを外します。



2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

- * ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りアクセサリとして「ボディマウントキャップK」が用意されています。
- * FAズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防ぐため、電源スイッチを **OFF** にした状態で行なってください。

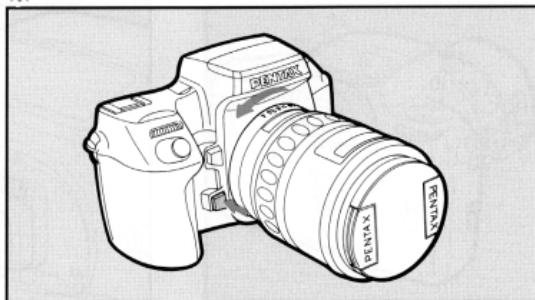
3



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押すと外れます。

- * 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- * ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やA F カプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

※



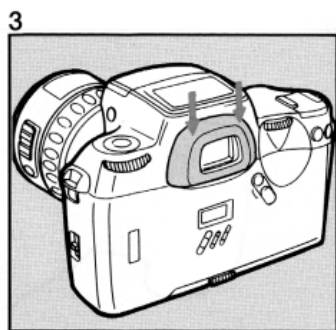
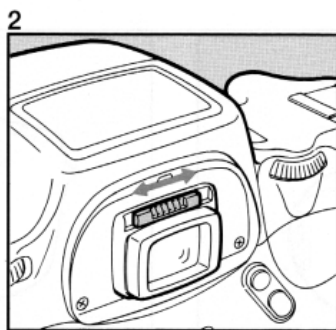
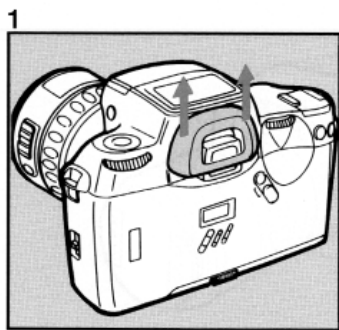
※ レンズを外すには

レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外せます。

- * 外したレンズは、接点やカプラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

14

(4) ファインダーの視度を調節します



1. アイカップFDを図のように取り外します。
2. カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレーム  の線が最もはっきり見える位置に調節します。
3. 調節が終わったら、アイカップFDをファインダー接眼部のアクセサリ取り付け溝に取り付けてください。

* 取り付けるときは、アイカップFDを上から差し込むようにしてアクセサリ取り付け溝にハマ込んでください。

* 視度の調節範囲は、 $-2.5\text{m}^{-1} \sim +1.5\text{m}^{-1}$ (メートル)です。

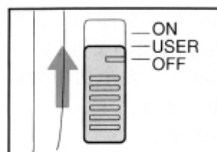
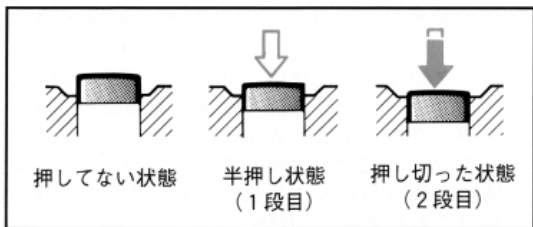
Z-1 Pのシャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押し(1段目まで押す)すると、露出計やオートフォーカス機構が作動します。さらにシャッターボタンを押し切る(2段目まで押す)と、シャッターが切れ撮影できます。

シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、指の腹でゆっくり押してください。

* フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。

* 露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を離しても入ったままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチも継続します。



電源スイッチは3段階になっています。

ON = フルスベックポジション

Z-1 Pの全ての機能が使用可能です。ただし、露出モードはペンタックスファンクション設定によって、使えるモードが異なりますのでご注意ください。(104ページ参照)

USER = ユーザーポジション(簡易撮影モード)

露出モードは絞りがA位置では、プログラム自動露出のみ。絞りがA位置以外では、絞り優先自動露出のみとなります。

その他の使用できる機能については、22ページをご覧ください。

ただし、ユーザーポジションに、任意の露出モードやその他の機能を設定することができます。(75ページ参照)

OFF = 電源OFF

使わないときは、必ずこの位置にしてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。

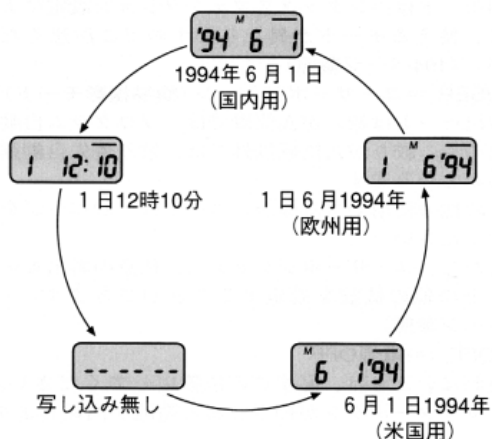
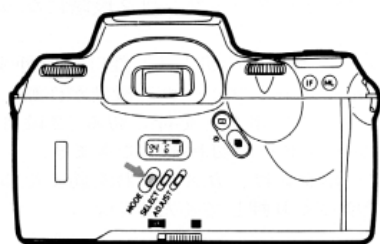
(7) データバックを使います

右図のように、矢印の**MODE**ボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は図のように

MODEボタンを押すごとに変わり、表示に出ている日付けまたは時間が写し込まれます。

Mは「月」の位置を表わしています。

---はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。



* **---**にすると何も写し込まれません。

* 日付けの表示方法は、3種類あります。

* データの写る部分(画面右下)に白や黄色のものがあると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

* 日付けの修正は、100ページをご覧ください。

* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。

* データバックの電池は、リチウム電池を使用します。データの写り込みが薄くなったり、データバックの表示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換はお近くの当社サービス窓口にて受け付けております。(有料)

カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

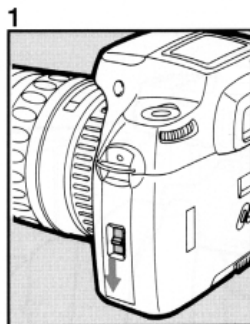
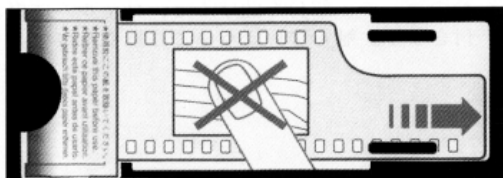
フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

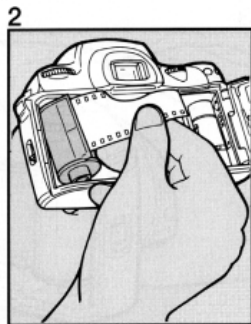
[ISO25～5000までのフィルムが使えます。]

* ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムを使用するときは、110ページをご覧ください。

* カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。



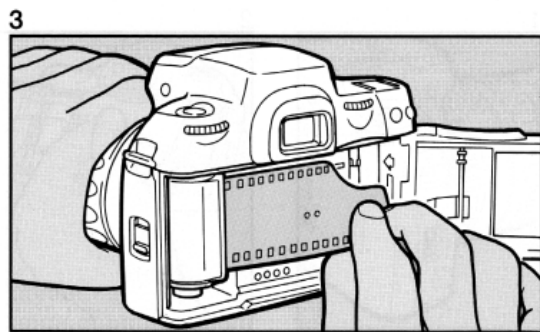
1. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ぶたが開きます。



2. 図のようにレンズ部分を左手でしっかり持ち、フィルムの凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

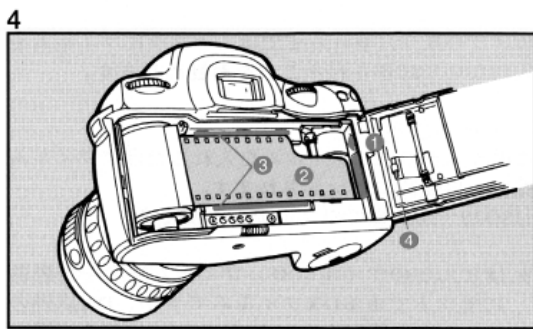
* フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行なってください。

* シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。



3. 左手でレンズを持ったまま指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムをバトロネに戻してたるみを取ります。

* フィルム室内のDXの情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように、注意してください。ゴミや汚れがあるときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

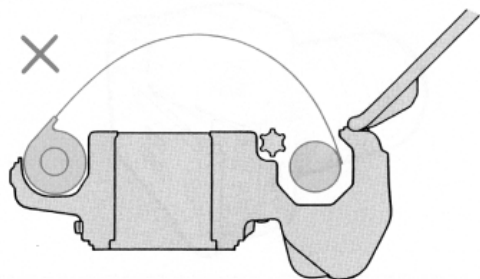


4. 図のように、フィルム先端部を①の赤色先端マークに合わせます。

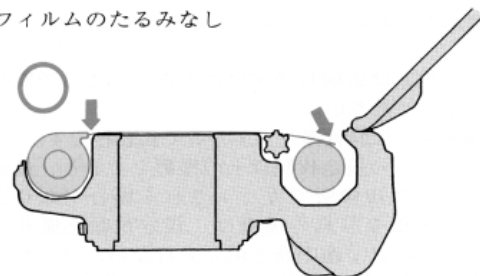
* フィルムの穴[パーフォレーション]を②の歯[スプロケット]に合わせ、③のガイドレール[図中、赤線部分]の間にフィルムが入っていることを確認してください。

* ④のローラー部分を曲げると、フィルムに傷が付きます。触らないようにご注意ください。

フィルムのたるみあり

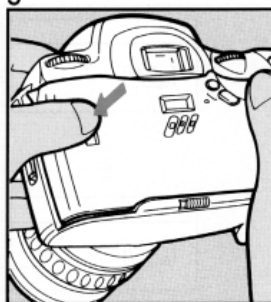


フィルムのたるみなし



* フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

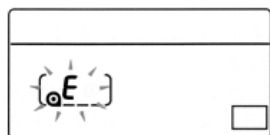
5



カメラの準備と基本操作

5. 裏ぶたを閉め電源スイッチを **ON** か **USER** にすると、自動的に巻き上げられます。表示パネルに **[E]** と **[Q---** が出ていることを確認します。

* 表示パネルのフィルム枚数表示は、シャッターボタンを押して撮影するごとに1つずつ進みます。

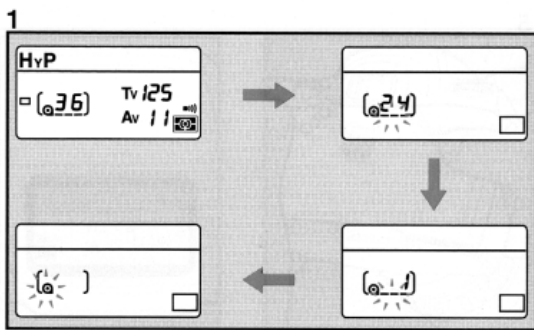


* 表示パネルに **[Q---** が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください。

20

(9) フィルムの巻き戻しについて

カメラの準備と基本操作



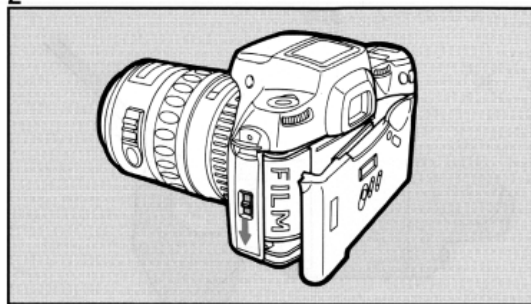
1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

* ペンタックスファンクションのNO. 12の設定が選択肢の1番(フィルム終了時、自動巻き戻ししない)になっている場合は、次ページの「フィルムの途中巻き戻し」にてフィルムを巻き戻し後、フィルムを取り出してください。

* 巻き戻し中は、表示パネルの **[---** が点滅し、撮影枚数も逆算表示されます。

* 巻き戻しが終了すると、表示パネルの **[Q** が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。この表示を確認してから、裏ぶたを開けてください。

2



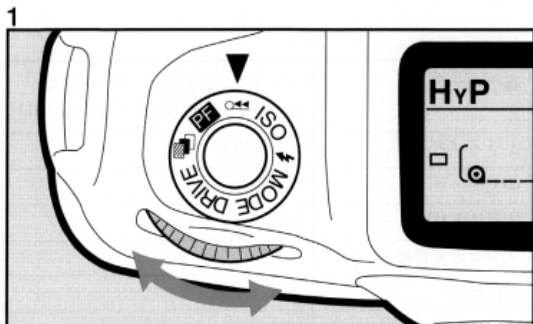
2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

* フィルムは直射日光が当たらないところに取り出してください。

* 巻き戻しは24枚撮りフィルムで約10秒です。

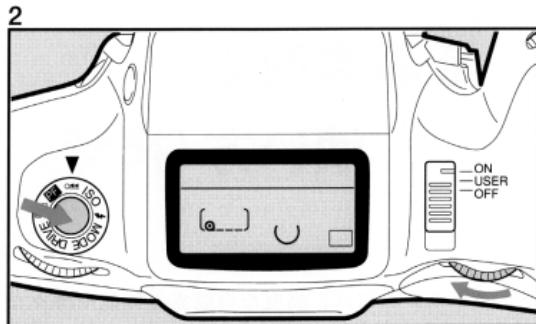
* フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻しを行ない、フィルムを取り出してください。(21ページ参照)

* ペンタックスファンクション設定で、フィルム巻き戻し完了時にフィルムの先端部分を残すようにすることもできます。(108ページ参照)



フィルムの途中巻き戻し
フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

* 電源スイッチが **OFF** になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。



1. モードダイヤルを **A** に合わせます。
2. モードセットボタンを押したまま A v ダイレクトダイヤルを左方向に2クリック回すと、巻き戻しを開始します。

* 表示パネルの **EV** の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

カメラの準備と基本操作

Ⅱ 基本的な 使い方（撮影）

基本的な使い方

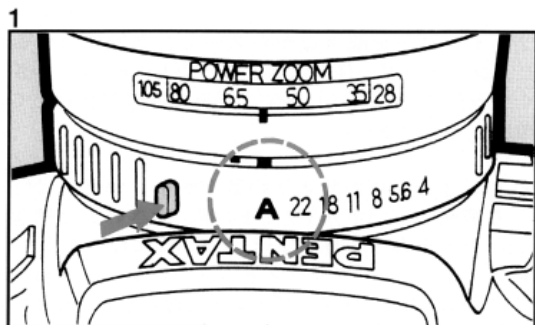
Z-1Pカメラには、高度な自動露出機能や様々なドライブモードが付いていますが、ここでは、最も簡単に使える **USER**（ユーザーポジション）を使用します。写したいものの明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度と絞りを決定しますのでシャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

* ユーザーポジションで使える機能は、右表の通りです。これ以外の機能は使えません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により任意の機能を設定できます。（75ページ参照）

（1）最も簡単な露出モードを使います

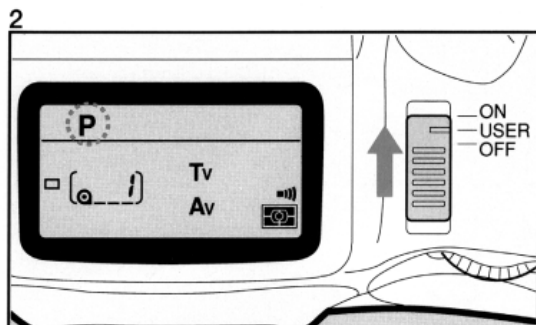
ユーザーポジション機能一覧

露出モード	プログラム自動露出（絞りA位置） 絞り優先自動露出（絞りA位置以外）
ドライブモード	1コマ撮影
測光モード	分割測光
内蔵ストロボモード	先幕シンクロ
ストロボ光量補正	不可
露出補正	不可
オートブラケットティング	不可
プログラムライン	ノーマル



1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

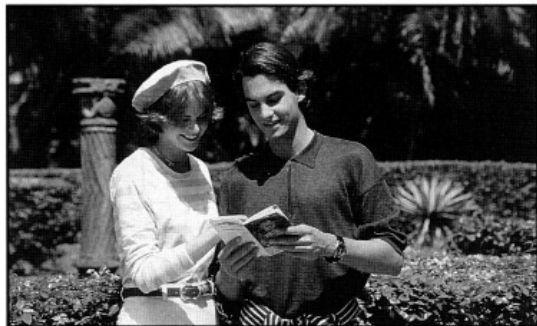
* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。



2. 電源スイッチをユーザーポジション[USER]に合わせます。

* 表示パネルに[P]が出て、プログラム自動露出に設定されます。

(2) ズームレンズの使い方



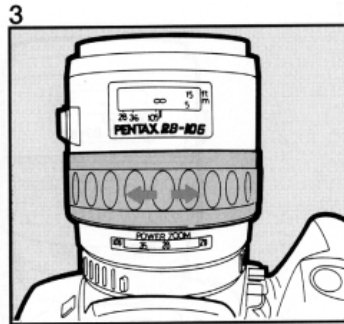
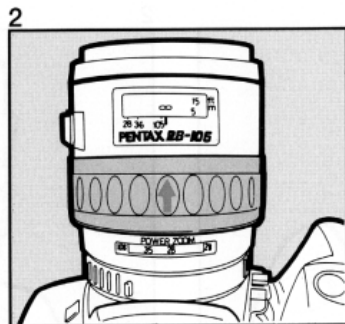
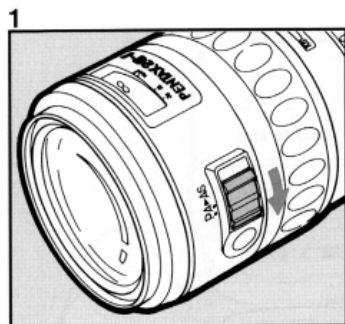
望遠側



広角側

ファインダーを覗きながらズーミング操作をする
と、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さ
くなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて
撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写
る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは遠
いものを大きく写す望遠(テレ)側になります。
- * Z-1PにペンタックスFAズームレンズを組み
合わせると、パワーズーム(電動ズーム)として
使用できます。
- * ペンタックスFズームレンズなどを組み合わ
せる場合は、マニュアルズームとしてご使用く
ださい。



パワーズームで使用するには

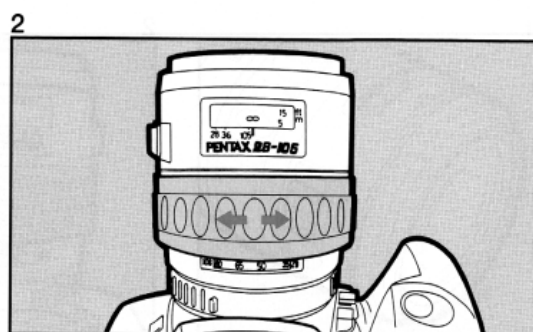
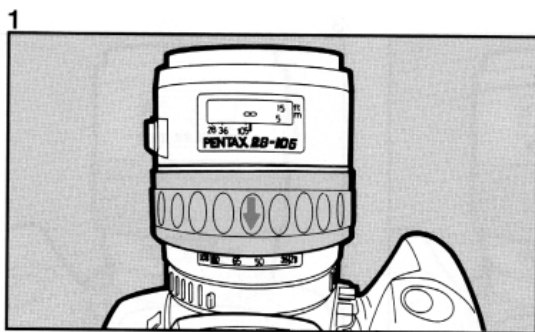
* ペンタックスF Aズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. F Aズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを[P] (一部のレンズでは[PZ]) に合わせます。
2. 図のように「POWER ZOOM」が見える状態にします。
3. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に動き、手を離すと止まります。

* ズームリングは、回転させる角度によって、

ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする(当て付ける)と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。

- * パワーズームでズーミングをすると自動的にピント合わせが行われます。(ペンタックスファンクションNO. 13で変更可)
ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの半押しで行ってください。
- * F Aズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。



マニュアルズームで使用するには

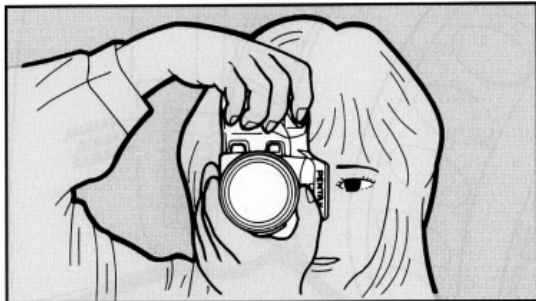
* F Aズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、Fズームレンズと同様に使用できます。

1. 図のように「POWER ZOOM」が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に焦点距離が変化します。

横位置



縦位置

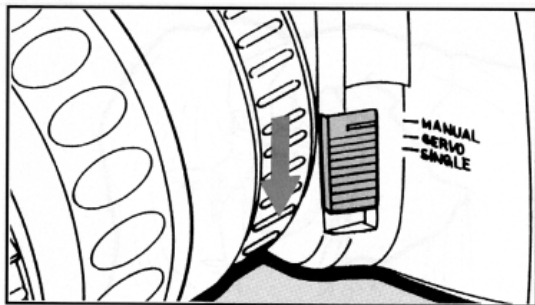


撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは指の腹で静かに押します。
(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチD」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(4) オートフォーカスで使います



図のように、フォーカスモードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** または **[SERVO]** に合わせます。

ここでは、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** に合わせておいてください。

フォーカスモードレバーについて

- ・ **[SINGLE]** = シングル

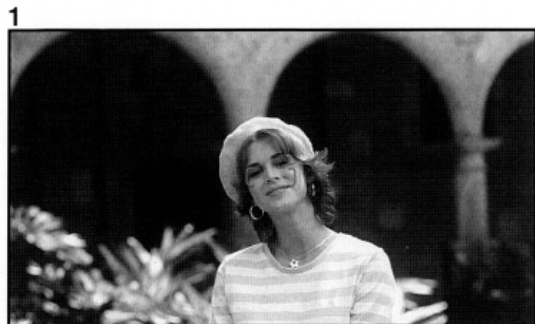
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。ピントが合っていないとシャッターは切れません。

- ・ **[SERVO]** = サーボ

シャッターボタンを半押ししている間、被写体の距離が変わっても、それに合わせてピントを追いつけるオートフォーカスモードです。ピントが合っていないでもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターが切れます。このモードでは動体予測機能も働きます。

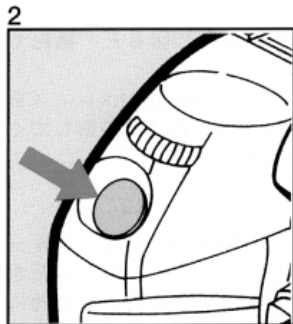
- ・ **[MANUAL]** = マニュアル

手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに使用します。(38ページ参照)



1. 写真のように、AFフレーム [C] を写したいものに合わせます。
2. シャッターボタンを半押しすると自動的にピント合わせが行なわれます。

- * 構図上、AFフレーム [C] がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(31ページ)」をご利用ください。
- * ピントが合うと、図のようにファインダー内の [O] が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO. 1で変更可)



- * オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

[O] が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ① 撮影距離が近すぎる
- ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合(38ページ参照)

- * さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。
- * SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(39ページもご覧ください)

- * フォーカスモードレバーが [SINGLE] で、ドライブモードが連続撮影 [] のときは、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。

動体予測

フォーカスモードレバーが [SERVO] では、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。

AFシングル撮影:

フォーカスモードレバー [SINGLE] の場合

- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、[O] が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。(31ページ参照)
- * 一度ファインダー内の [O] が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。

AFサーボ撮影:

フォーカスモードレバー [SERVO] の場合

- * ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができですが、シャッターボタンを半押ししている間、AFフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
- * AFサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測を行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
- * フォーカスロック撮影はできません。



フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレーム[C]で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック(ピント一時固定)撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

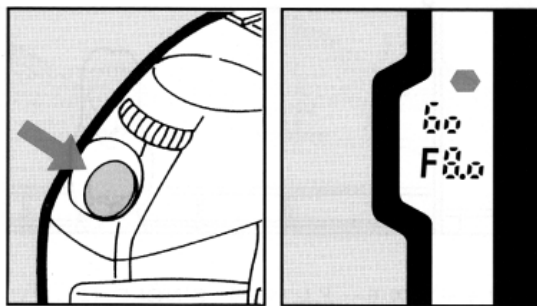
1. AFフレーム[C]が外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム[C]を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして[]を点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

- * フォーカスモードレバーを[SINGLE]にしないと、フォーカスロックはできません。
- * シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の[]が消えると、フォーカスロックは解除されます。
- * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
- * フォーカスロック後、シャッターボタンを押し込んで撮影を行ない、シャッターボタンから指を離さずに再びシャッターボタンを半押しに戻すと、フォーカスロック状態のまま何度でもシャッターを切ることができます。

基本的な使い方

32

(6) 撮影します



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。

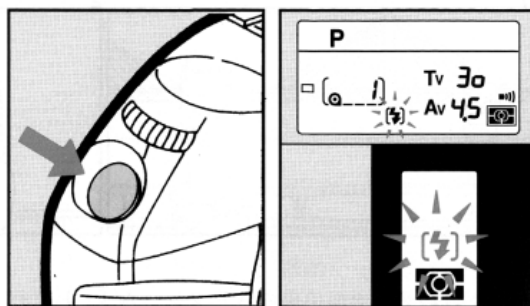
シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

- * ストロボお勧め表示が出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。

パノラマシグナル [] について

標準撮影のときは、パノラマシグナル [] が消えていることを確認してください。

(7) 内蔵ストロボの基本的な使い方

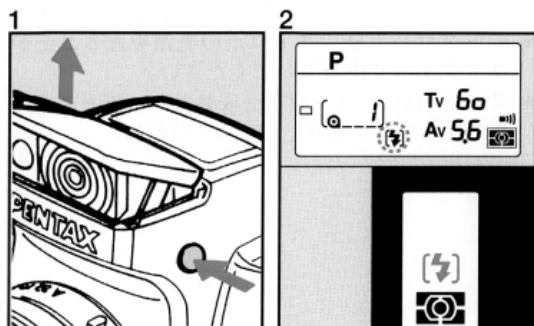


ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに[]の点滅(ストロボお勧め表示)が出て、ストロボの使用を勧めます。

なお、シャッター優先自動露出・ハイパーマニュアルでは逆光の場合にのみ、ストロボお勧め表示が出ます。

基本的な使い方



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。
 2. 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルとファインダー内に [B], ストロボ同調速度および絞りが表示されます。
 3. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。
- * ストロボを連続して使うと、電池が多少温くなる場合がありますが、異常ではありません。



(ISO 100とき)

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4~2.8	約1~約5m
F3.5	約0.8~約4m
F4.7	約0.7~約3m
F5.6	約0.7~約2.5m

プログラム TTL オートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

* 露出モードがハイパープログラム自動露出およびプログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション [USER] の場合のみ)の場合、内蔵ストロボはプログラム TTL オートストロボとして働きます。

- * プログラム TTL オートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値が F4.5 より暗いレンズを使用しても約 0.7m と一定になります。
- * 0.7m より近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなる場合がありますのでご注意ください。

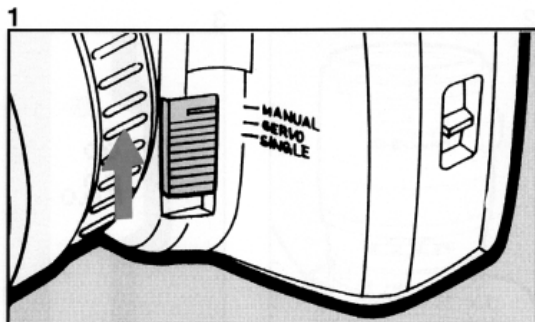
レンズが不適切な場合の警告表示

ストロボ撮影に不適切な F・FA レンズを使用すると、充電完了時シャッターボタン半押しで、表示パネルの [B] やファインダー内の [B] が点滅して警告します。内蔵ストロボの適・不適レンズについては、FA レンズの使用説明書をご覧ください。

- * 警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出ますのでご注意ください。
- * F・FA レンズ以外では警告表示は出ません。

- * レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
- * Z-1P には、ストロボ 2 度発光による赤目軽減機能が付いています。(92 ページ参照)

Ⅲ応用的な使い方



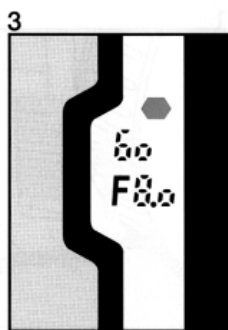
マニュアルフォーカスレンズを使う場合
従来のKAやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ(F1.2~5.6)を使うと、ファインダー内の合焦表示 $\odot$ を利用した手動ピント合わせができます。

使い方

1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。

応用的な使い方

36



2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示 $\odot$ が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

- * ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示 $\odot$ の点灯と同時に「ビピッ」と電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットすると同じ操作になります。

* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示 $\odot$ によるピント合わせはできません。

スナップインフォーカス撮影について

KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットすると、別売りのケーブルスイッチFなどを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

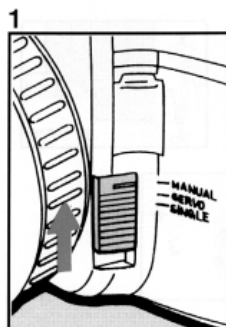
1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFなどを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

応用的な使い方

オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ペローズ100mm F4、シフト28mm F3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

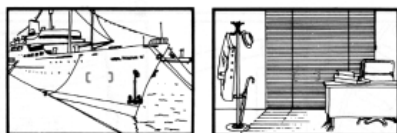


使い方

- フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。
- ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

応用的な使い方

(2) オートフォーカスの苦手な被写体



応用的な使い方

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものです、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- A Fフレーム  に白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合。
- A Fフレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- 非常に速い速度で移動している被写体。
- A Fフレーム  に横線のための被写体や細かな模様の被写体がある場合。
- 遠近のものがA Fフレーム  の中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい被写体)。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示 $\square$ を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用する時には円偏光フィルターをご利用ください。
- 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

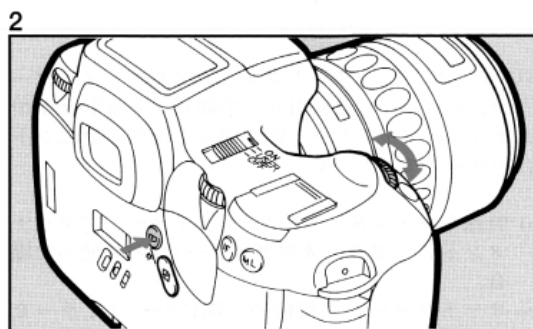
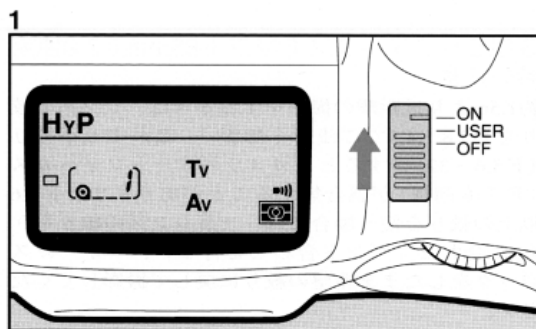
SMCペンタックスFソフト85mm F2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8～4.5でご使用ください。これより小絞り(F5.6～32)にすると、カメラのオートフォーカス(FIも同様)が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞riを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに戻して撮影してください。

応用的な使い方

40

(3) 測光モードの切り替えについて



応用的な使い方

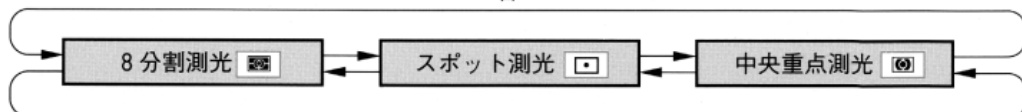
Z-1Pは、撮影者の好みで測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

スポット測光は被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどに、また、中央重点測光は経験的に露出補正をして撮影したいときなどにご利用ください。

切り替え方法

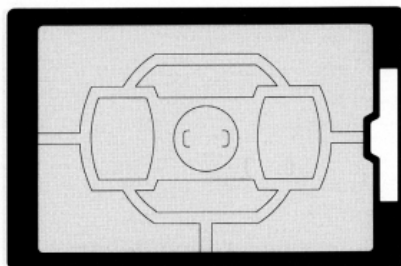
- 電源スイッチを **ON** にします。
- 測光モード切り替えボタン $\square$ を押しながらTvダイレクトダイヤルを回して希望する測光モードを選びます。

右へ



左へ

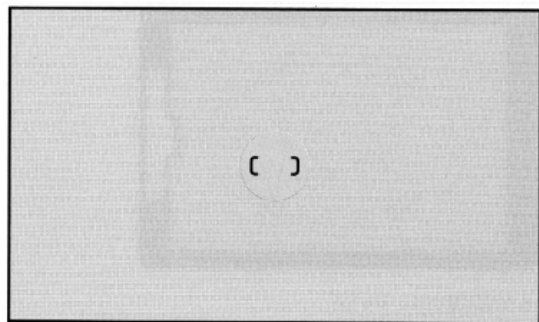
- * 電源スイッチがユーザーポジション **[USER]** では、測光モードは分割測光になり測光モードの切り替えはできません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、分割測光以外の任意の測光モードに設定することができます。(75ページ参照)
- * レンズ情報接点のないレンズ(Aレンズより前のレンズ)を使用したときは、分割測光は使用できませんので、中央重点測光かスポット測光をご利用ください。電源スイッチがユーザーポジション **[USER]** では、中央重点測光だけとなります。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、スポット測光に設定することができます。(75ページ参照)
- * **A50mmF1.2**レンズの場合、絞りA位置以外では分割測光になりません。



8分割測光について

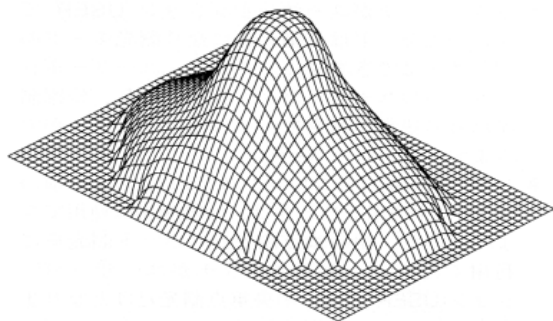
Z-1Pは、高精度のTTL 8分割測光モードが採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行ない、様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまう。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないように露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。



スポット測光について

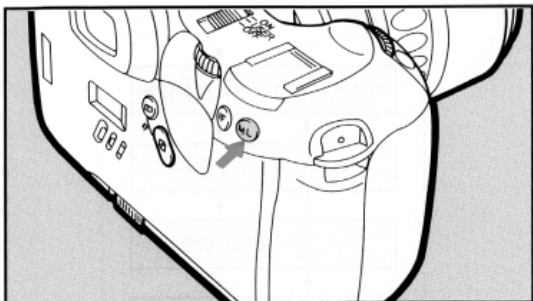
図のように、ファインダー中央部の限られた範囲だけで露出を測りますので、この部分に露出を合わせたい被写体を入れて撮影してください。ただし、この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまうことがあります。



中央重点測光について

中央重点測光では、8分割測光のように逆光のときなどに、カメラが自動的に露出を補正することはありませんので、経験的に露出を補正して撮影したい場合などにご利用ください。

測光分布は、上図のようになっており、高さが高い部分(中央部分)ほど感度が良くなっていることを表しています。



メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン **ML** を押し、好みの構図に戻してから撮影します。

- * メモリーロックボタン **ML** を押すと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。
- * メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン **ML** から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
- * ペンタックスファンクションで、メモリーロックボタン **ML** を押したときに、オートフォーカスが作動しフォーカスロックしてから露出を固定するように設定できます。ただし、フォーカスモードが **SINGLE** 時のみ可能。(107ページ参照)
- * メモリーロックボタン **ML** を押すと電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * メモリーロック中は、ファインダー内に ***** が表示されます。
- * メモリーロック中にメモリーロックボタン **ML** をもう一度押すと解除できます。

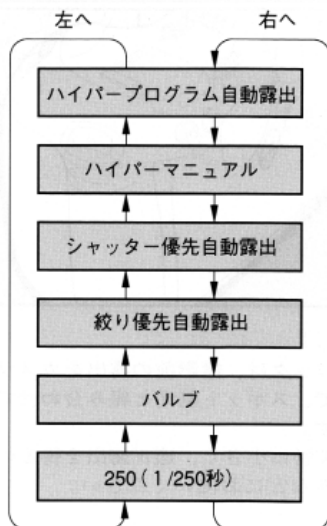
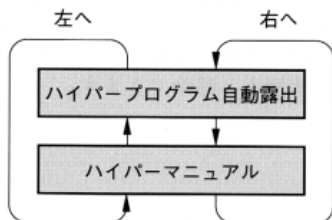
(4) 各露出モードを選びます

電源スイッチを **ON** (フルスペックポジション) にします。

絞りがA位置の場合

下図のように矢印の順で2つの露出モードを交互に変えられます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。

- * ペンタックスファンクションのNO. 2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にすると(104ページ参照)、右図のように6つの露出モードを選ぶことができます。工場出荷時は、ペンタックスファンクションの設定は0になっていきますので、使用できる露出モードは、ハイパープログラム自動露出とハイパーマニュアルの2つだけとなります。



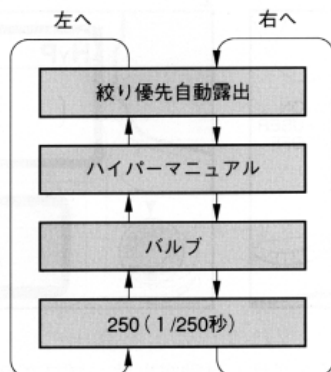
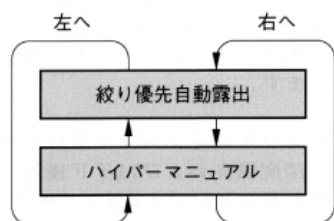
電源スイッチを **ON** (フルスベックポジション) にします。

絞りがA位置以外の場合

絞りがA位置以外では、下図のように2つの露出モードを交互に変えられます。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。

* ペンタックスファクションのNO. 2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にすると(104ページ参照)、右図のように4つの露出モードを選ぶことができます。

工場出荷時は、ペンタックスファクションの設定は0になっていますので、使用できる露出モードは、絞り優先自動露出とハイパーマニュアルの2つだけとなります。

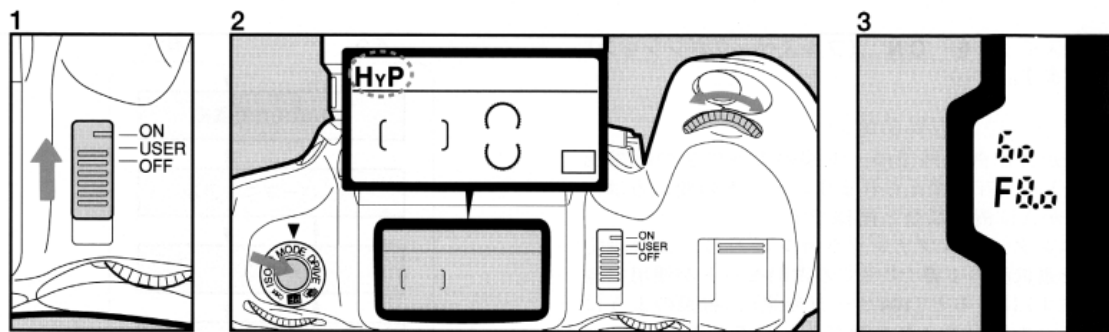


応用的な使い方

以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。

46



1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(22ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HvP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

* プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(98ページ参照)

応用的な使い方

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。(52ページ参照)

- * シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。(ペンタックスファンクション設定でシャッター速度のシフトを禁止(105ページ)した場合を除く。)
- * 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内のシャッター速度表示の下横棒が点滅します。(ペンタックスファンクションNO.5で変更可)
- * **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

※露出警告

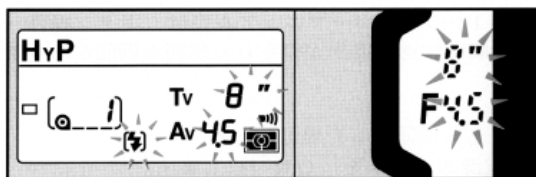
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを換えたい場合

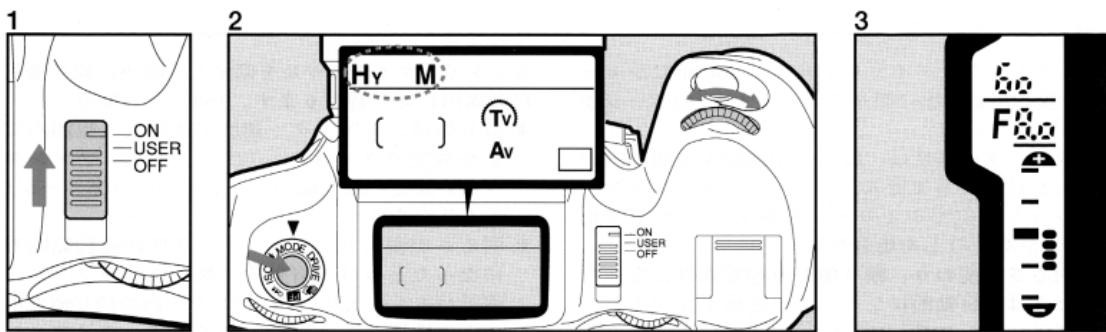
Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。(54ページ参照)

- * 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。(ペンタックスファンクション設定で絞り値のシフトを禁止(105ページ)した場合を除く。)
- * 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内の絞り値表示の下横棒が点滅します。(ペンタックスファンクションNO.5で変更可)
- * **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

※



48



2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

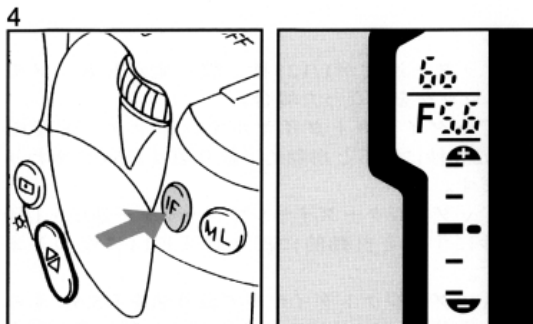
Z-1Pのハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値とバークラフが表示され、表示パネルにもバークラフが表示されます。

- * 表示パネルの $\square$ と $\square$ およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下横棒は、TvダイレクトダイヤルとAvダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。



4. **IF** ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

- * 表示パネルとファインダー内のバーグラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、**A** vダイレクトダイヤルで絞りを、**T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

- * **IF** ボタンを押すと、現在のプログラムライン(98ページ)に従って絞り、シャッター速度が変化します。(ペンタックスファンクションNO. 6で変更可)
このとき電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO. 1で変更可)
- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。
- * 表示パネルのバーグラフの黒丸が 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がオーバー、 側(ファインダー内は) に並んでいるときは露出がアンダーです。バーグラフの黒丸1個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの (ファインダー内は) あるいは (ファインダー内は) が点滅します。
- * 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン **ML** を押して、露出値を記憶させることができます。(43ページメモリーロック参照) この状態で、**T** vダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆に **A** vダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

使用方法

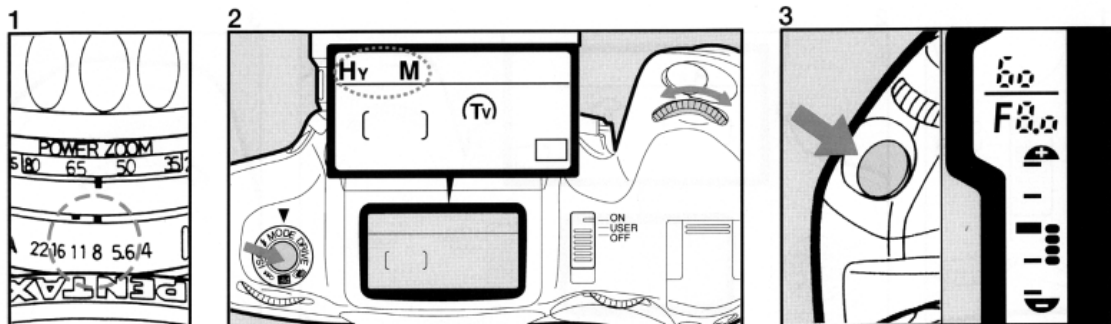
1. 絞りをA位置にする。
2. 露出モードをハイパーマニュアルにする。
3. メモリーロックボタン **ML** を押して露出値を記憶させる。
4. **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を、**A** vダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

(例)

シャッター速度が1/125秒、絞り値がF 8でメモリーロックを行なった場合。

- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はF 5.6に変わります。
- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はF 11に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF 5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF 11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。



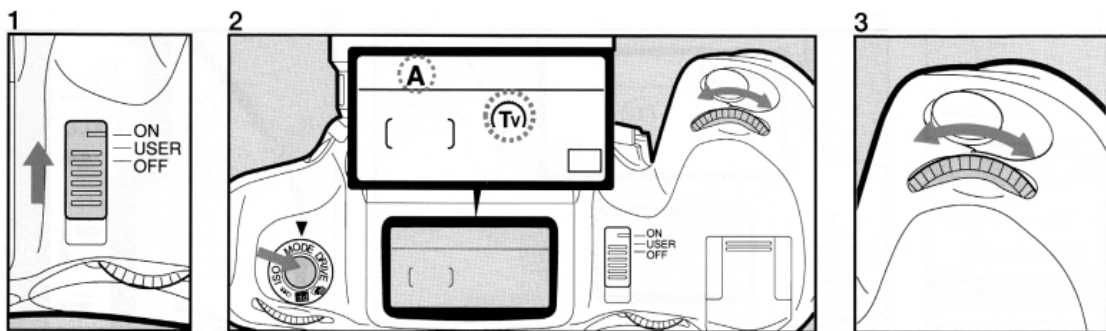
絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度とバググラフが表示されます。絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

* 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、**IF** ボタンを押すとシャッター速度だけが切り替わります。(49ページ参照)

- * F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方



応用的な使い方

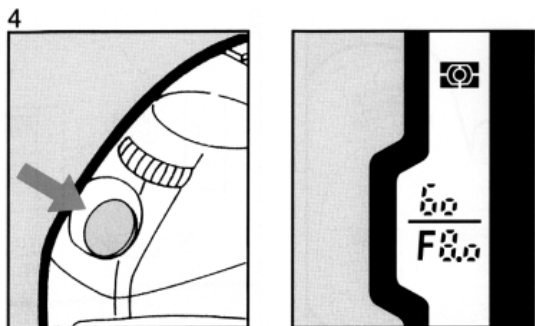
3) シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。

シャッター優先自動露出モードの選択は、ペンタックスファクションのNO.2の設定を選択肢の1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

絞りをA位置にします。

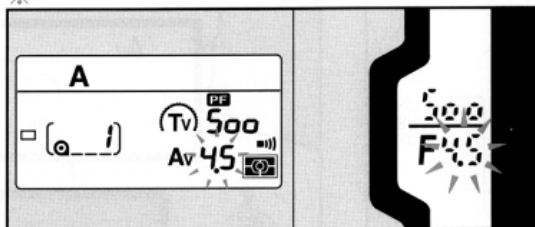
1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Tv** の表示を出します。
3. Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

- * 表示パネルの およびファインダー内のシャッター速度表示の下に横棒は、Tvダイレクトダイヤルによってシャッター速度が変更可能であることを表わしています。
- * ペンタックスファンクション設定で、シャッター速度の設定を1EVステップから0.5EVステップに変えられます。(104ページ参照)

※



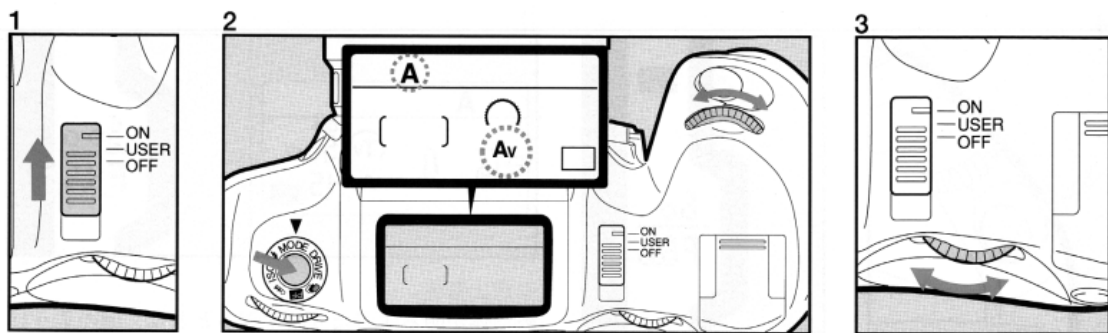
※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター（明るい場合）やストロボ（暗い場合）などをご利用ください。

応用的な使い方

54



応用的な使い方

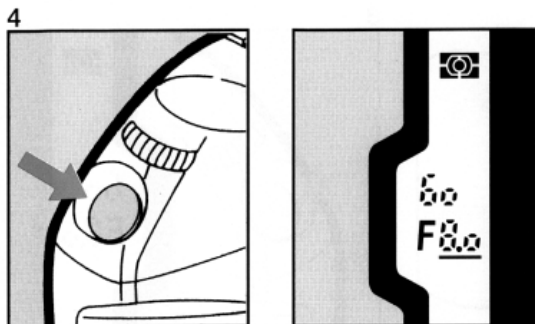
4) 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ビントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

絞りA位置での絞り優先自動露出モードの選択は、ペンタックスファンクションのNO.2の設定を選択肢1番（すべての露出モードが使用できます）にしてください。(104ページ参照)

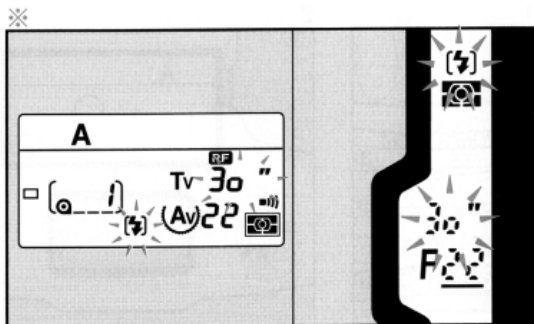
絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Av** の表示を出します。
3. Avダイレクトダイヤルで絞りを変えます。



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

* 表示パネルの  およびファインダー内の絞り表示の下、横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

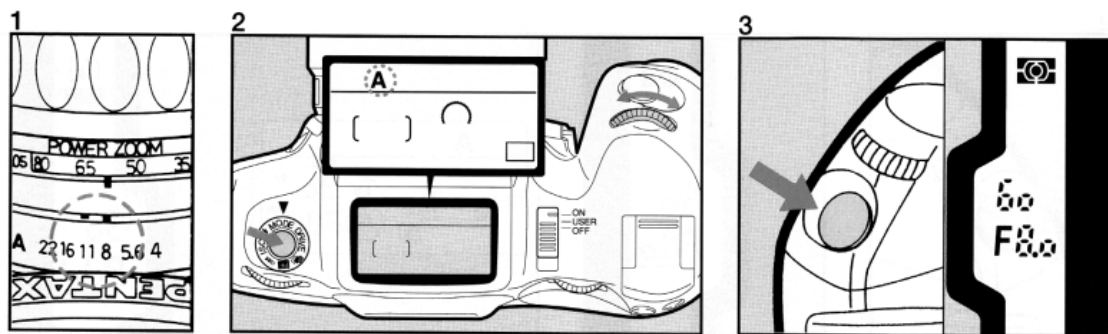


※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

応用的な使い方



絞りをA位置以外にした場合

絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

* F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

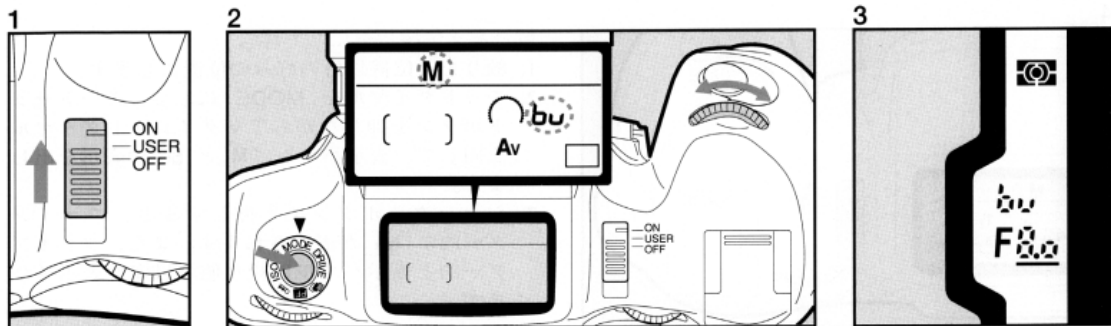
* 電源スイッチがユーザーポジション **USER** で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから55ページを参照してください。

応用的な使い方



5) バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。バルブモードの選択は、ペンタックスファクションのNO. 2の設定を選択肢1番(すべての露出モードが使用できます)にしてください。(104ページ参照)

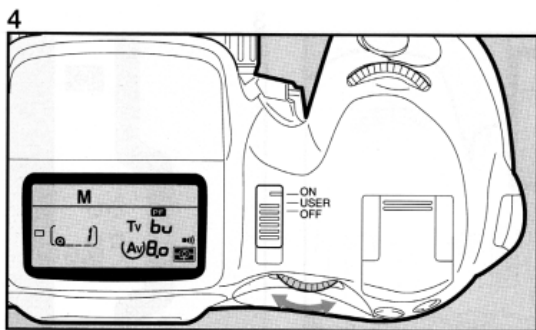
- * 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
- * シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値が表示されます。

- * 表示パネルの **U** およびファインダー内の絞り表示の下横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方



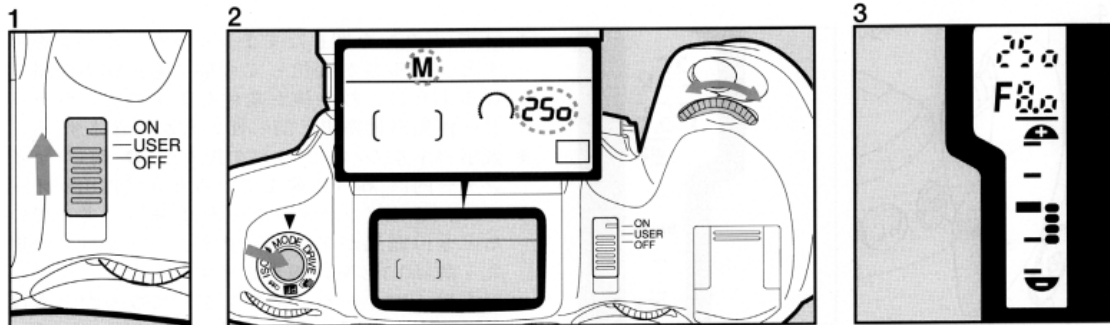
4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** が表示されます。また、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安が表示されます。

- * F A および F 以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
- * バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットキャップFDを外してからリリースソケットに差し込んでご利用ください。

応用的な使い方



6) 250 (1/250秒) の使い方

ストロボ使用時などにシャッター速度を1/250秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときにご利用ください。

250 (1/250秒) モードの選択は、ペンタックスファクションのNO. 2 の設定を選択肢 1 番 (すべての露出モードが使用できます) にしてください。(104 ページ参照)

絞り A 位置の場合

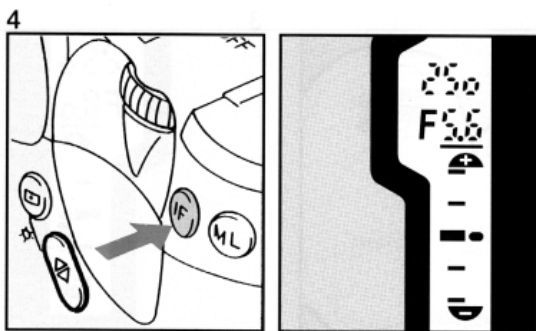
1. 電源スイッチを **ON** にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **250** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **250**、絞り値とバーグラフが表示され、表示パネルにもバーグラフが表示されます。

* 表示パネルの およびファインダー内の絞り表示の下横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表しています。

応用的な使い方

60

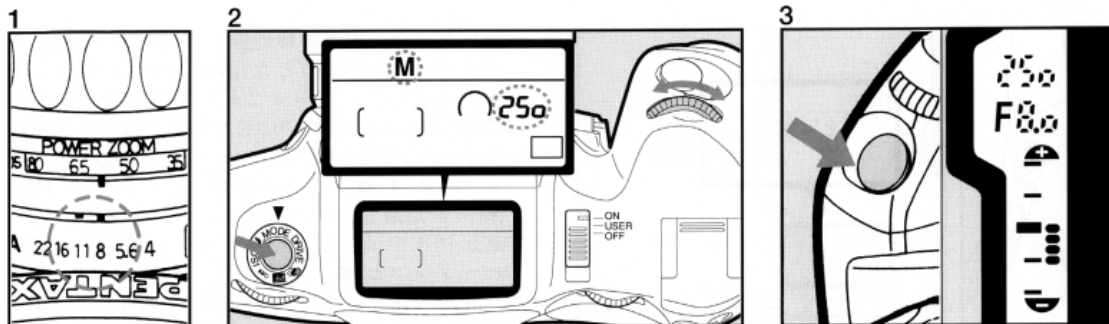


4. **IF** ボタンを押すと、絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

- * 表示パネルとファインダー内のバーグラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、Avダイレクトダイヤルで絞りを変えれば、好みの露出値で撮影することができます。
- * **IF** ボタンを押すと電子音が鳴ります。(ペンタックスファクションNO. 1 で変更可)

- * **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、絞り値が変化しますので、シャッター優先自動露出と同じ使い方ができます。
- * 表示パネルのバーグラフの黒丸が 側 (ファインダー内は) に並んでいるときは露出がオーバー、 側 (ファインダー内は) に並んでいるときは露出がアンダーです。バーグラフの黒丸 1 個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの (ファインダー内は) あるいは (ファインダー内は) が点滅します。
- * 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター (明るい場合) やストロボ (暗い場合) などをご利用ください。

応用的な使い方



絞りをA位置以外にした場合

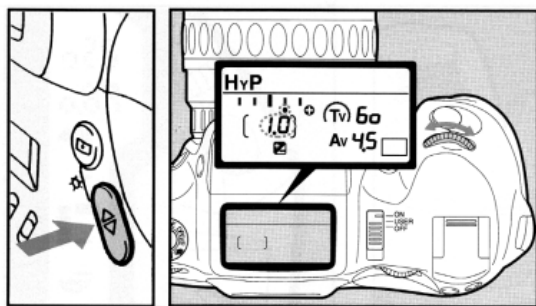
1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **[MODE]** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[M]** と **[250]** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内および表示パネルに **[250]**、絞り値の目安とバググラフが表示されます。

* F AおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません。

- * 絞りリングで絞りを変えて、表示パネルとファインダー内のバググラフの中心に黒丸が移動すれば適正露出です。その後、絞りリングで絞りを変えれば、好みの露出値で撮影することができます。
- * バググラフの表示と露出警告の内容は、絞りがA位置の場合と同じです。(60ページ参照)
- * プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方

(5) 露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときに露出を補正するために使います。

セット方法

露出補正ボタン **[+/-]** を押したままTvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選びます。

- * 補正は-4 ~ +4 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに変更できます。(104ページ参照)

* バググラフの黒丸の移動量1つが0.3 EV(補正ステップが0.5 EVのときは0.5 EV)に相当します。ただし、-2 ~ +2 EVを越えて設定した場合(補正ステップが0.5 EVのときは-3 ~ +3 EV)は、表示パネルのバググラフの **[+]** (ファインダー内は **[+]**) あるいは **[-]** (ファインダー内は **[-]**) が点滅して知らせます。

* 露出補正中は、表示パネルとファインダー内にバググラフと **[+/-]** が表示されます。

* ハイパーマニュアルおよび250(1/250秒)のときのバググラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされますが、露出計がOFFになると露出補正値の表示になります。

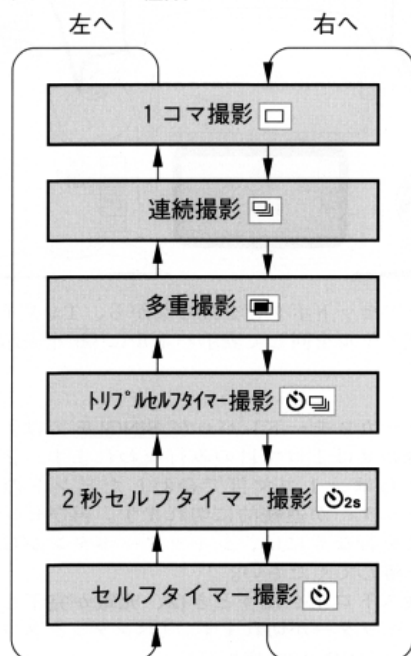
露出計が働いているときに、バググラフの黒丸を中心に合わせれば、補正量に応じた撮影ができます。

* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。

* 電源スイッチがユーザーポジション **[USER]** の場合は、露出補正は働きません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能を行なうと露出補正は可能になります。(75ページ参照)

応用的な使い方

ドライブモードの種類

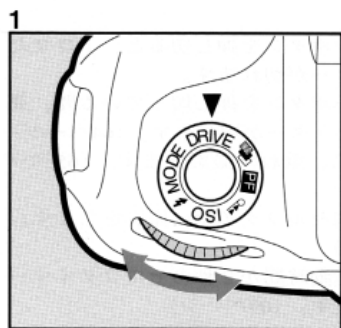


- : シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
- : シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(64ページ)
- : 同じコマに、重ねて撮影します。(65ページ)
- : 3コマ連続セルフタイマー撮影をします。(70ページ)
- : タイマー作動時間が2秒のセルフタイマー撮影をします。(69ページ)
- : 通常のセルフタイマー撮影をします。(67ページ)

* 電源スイッチがユーザーポジション **[USER]** の場合はドライブモードは1コマ撮影だけになります。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、1コマ撮影以外の任意のドライブモードを設定することができます。(75ページ参照)

応用的な使い方

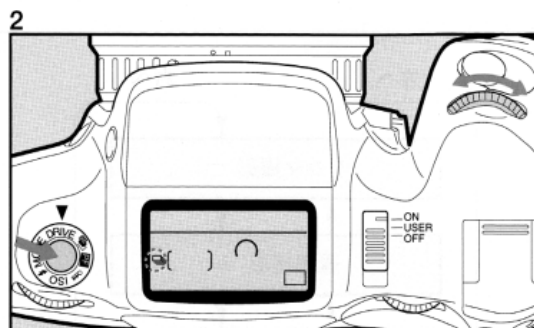
64



1) 連続撮影の使い方

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

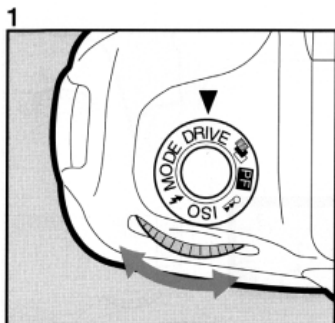
1. モードダイヤルを **[DRIVE]** に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

- * フォーカスモードレバーが **[SINGLE]** では、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。
- * 内蔵ストロボを使うときは、充電が完了してからシャッターが切れます。(ペンタックスファンクションNO. 10で変更可)

応用的な使い方

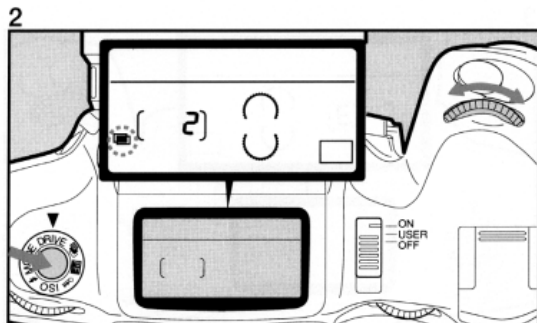


2) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

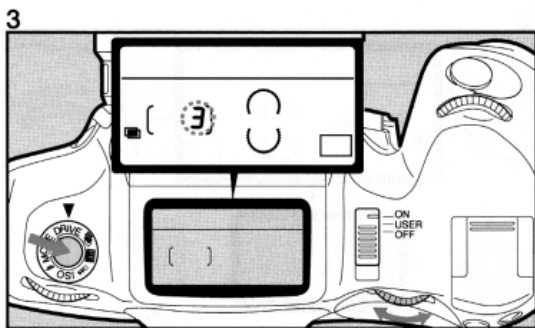
多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良好の結果を得ることができます。

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。



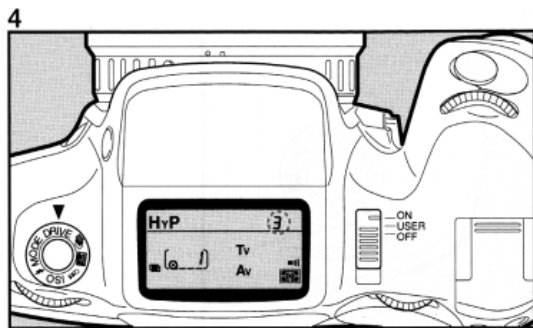
2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[]を表示させます。

応用的な使い方



3. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(1コマの中に写し込む回数)を決めます。
4. モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

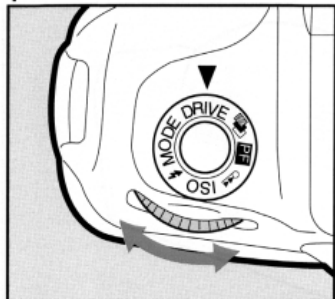
- * 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2～9回です。
- * 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。



- * シャッターボタンを押して撮影する度に回数表示は減算されます。
- * 多重露出の途中は、LCD表示パネルの[]が点滅してお知らせします。
- * 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを[OFF]かユーザーポジション[USER]にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを[ON]に戻したとき、1コマ撮影モード[]になります。
- * 撮影終了後は多重露出の回数設定は2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影[]になります。

応用的な使い方

1

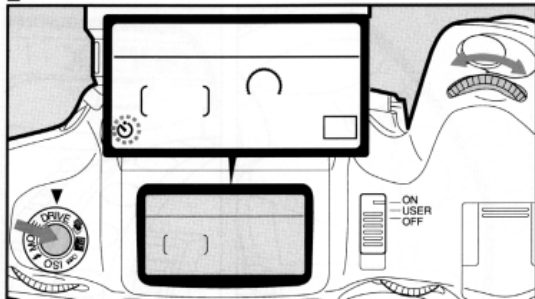


3) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせます。

2

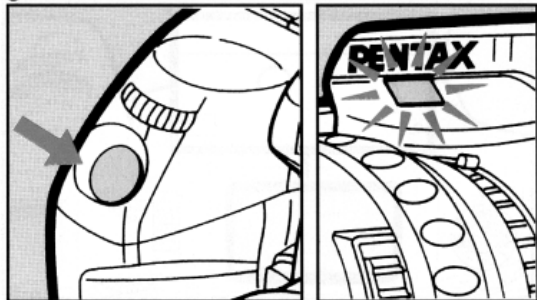


2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルにを表示させます。

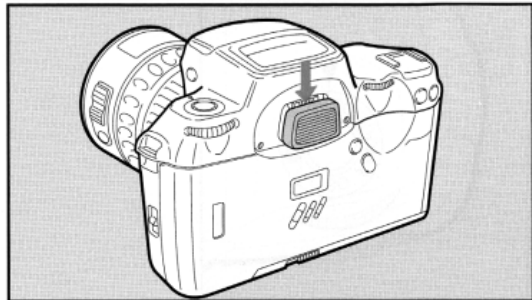
応用的な使い方

68

3



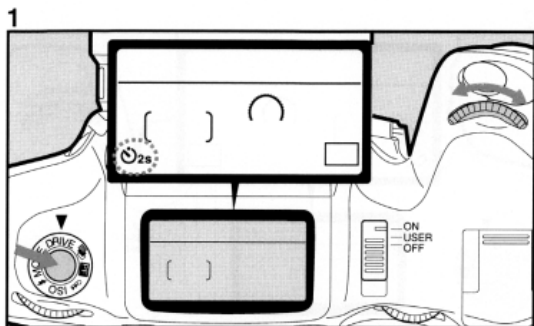
3. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが起動し、約12秒後にシャッターが切れます。



- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。(ペンタックスファンクションNO. 1で変更可)
- * セルフタイマーを起動後に中止したいときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。



4) 2秒セルフタイマー撮影の使い方

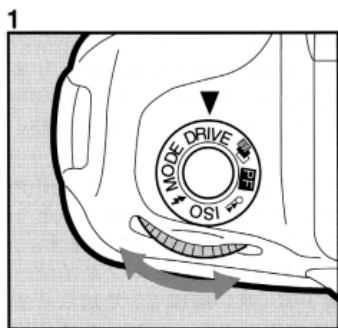
2秒セルフタイマー撮影は、近接撮影や複写などをするとき、ケーブルスイッチFの代用にご利用ください。

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせ、モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[2s]を表示させます。
2. 通常のセルフタイマーと同じ要領で、ピント合わせをしてからシャッターボタンを押し切ってセルフタイマーを始動してください。

- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。
- * カメラぶれを防止するために、シャッターボタンを押して2秒セルフタイマーを始動するとミラーが上昇しミラーアップの状態になります。
- * セルフタイマーを始動すると、セルフタイマーランプの点滅と電子音(速い断続音)で知らせます。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * 内蔵ストロボを使用するときは、充電完了を確認してから2秒セルフタイマーを始動してください。
- * セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを[OFF]にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影[]になります。

応用的な使い方

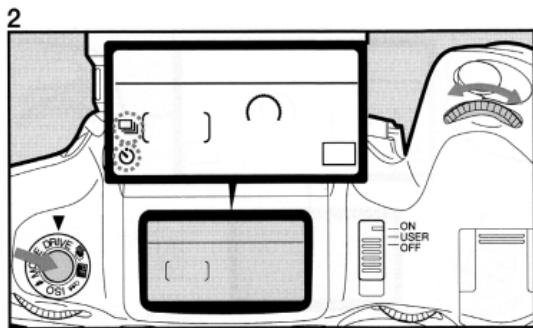
70



5) トリプルセルフタイマー撮影の使い方

トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押し切った後、約12秒後に3コマ連続撮影ができます。記念写真などで、焼き増しが面倒なときやポーズを変えた3枚の写真を気軽に作ることができます。

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[3s]を表示させます。

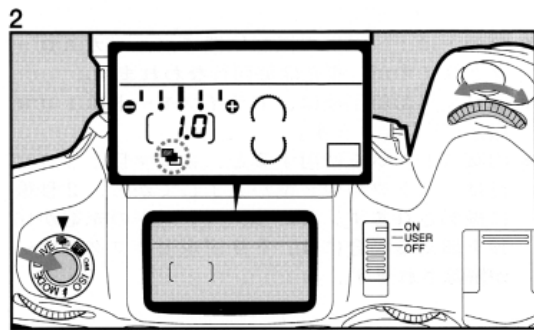
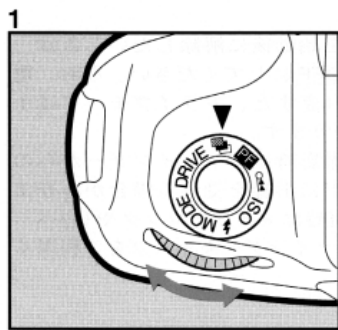
- * 通常のセルフタイマー撮影と同じ要領でセルフタイマーを始動し撮影します。
トリプルセルフタイマーは、次の間隔でシャッターが切れます。
・ 12秒後(1コマ目)→2秒後(2コマ目)→2秒後(3コマ目)

応用的な使い方

- * ピントは1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。
- * 3コマ撮影終了後は、ドライブモードは1コマ撮影  に戻ります。
- * 内蔵ストロボを使用すると、2コマ目と3コマ目は、ストロボの充電が完了してから、2秒後に撮影されます。ただし、ストロボの充電が16秒を超える場合には、トリプルセルフタイマーが解除されます。

- * セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを **OFF** にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。
- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

(7) オートブラケットング撮影の使い方



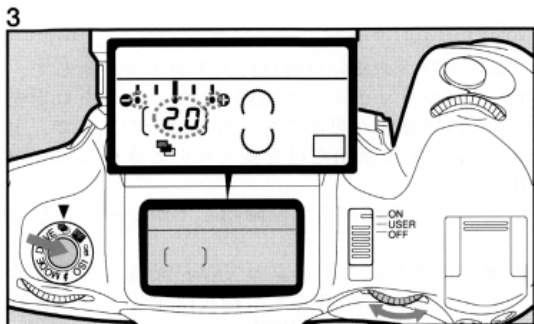
オートブラケットングは、撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正值を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

Z-1 Pでは、露出モードがハイパーマニュアルでもオートブラケットング撮影が可能です。また、ストロボ使用時(充電完了後)にこのモードを使用すると、ストロボ光のみのブラケットングが可能となります。

- * 電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、オートブラケットング撮影はできません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。

1. モードダイヤルを  に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して表示パネルにバググラフと  を表示させます。

- * 解除するときには、バググラフと  表示を消してください。
- * 表示パネルにバググラフと補正值が表示されます。このとき、シャッターボタンを半押しするとファインダー内にもバググラフが表示されます。ただし、露出モードがハイパーマニュアルおよび250(1/250秒)のときのバググラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされます。



3. モードセットボタンを押したままA vダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正は-4 ~ +4 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、補正量のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに変更できます。(104ページ参照)

* バーグラフの黒丸の移動量1つが0.3 EV (補正ステップが0.5 EVのときは0.5 EV) に相当します。

ただし、-2 ~ +2 EVを越えて設定した場合(補正ステップを0.5 EVにしたときは-3 ~ +3 EV)は、表示パネルのバーグラフの☒(ファインダー内は☒)あるいは☒(ファインダー内は☒)が点滅して知らせます。

4. シャッターボタンを押したままにすると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

* 1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で撮影されます。

* 絞りがA位置のハイパーマニュアルのときは、ペンタックスファンクションのNo. 6の選択肢の設定内容に応じて絞りとシャッター速度が変化します。ただし、選択肢を3番に設定した場合にはシャッター速度と絞りの両方が変化します。

* 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの☒が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンス待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの☒は約20秒間点滅した後点灯に変わり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。

* トリプルセルフタイマーと組み合わせると、1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で自動的に撮影することができます。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラACKETING撮影中は、1コマごとに測光を行いません。

* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

ストロボ光のブラACKETING

内蔵ストロボあるいは外付けストロボを使用して、オートブラACKETING撮影を行うと、ストロボ光だけの段階露出が可能です。背景はそのまま、主被写体[人物]の露出だけを変えたいときなどにご利用ください。

* ストロボの充電完了を確認してから撮影をしてください。

* 撮影距離や絞り値によっては、光量を補正しきれない場合があります。補正は+1 ~ -3 EV程度を目安にしてください。

露出補正と組み合わせる場合

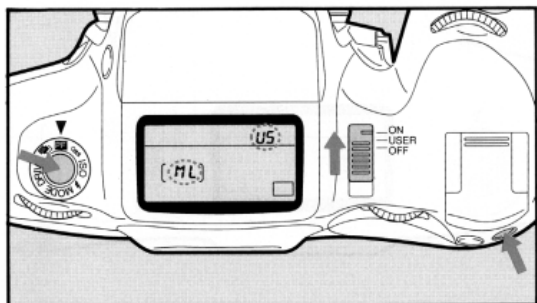
「露出補正」(62ページ)と組み合わせると、例のようにオーバー方向(+)のみやアンダー方向(-)のみの、より高度なオートブラACKETING撮影が可能です。

例) オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラACKETINGの補正量を±0.3EVに設定する。

2. +0.3EVの露出補正をかける。(62ページ参照)

3. この状態でオートブラACKETING撮影をすれば、1コマ目=+0.3EV・2コマ目=±0EV・3コマ目=+0.6EVの補正がされます。



ユーザーセット機能とは、ユーザーが希望する各機能の設定を選択、記憶させ、電源スイッチをユーザーポジション **USER** に合わせるだけでいつでも呼び出せる便利な機能です。

初期状態のユーザーポジションでは、22ページの表の機能しか使用できませんが、ユーザーセット機能により76ページの表にある各機能を選択できます。このように、ユーザーポジションを好みの使いやすい機能に変えることができます。

好みのモードを記憶させます。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. 記憶させたい好みの露出モードを選びます。(44ページ参照)
3. 同様に、記憶させたいドライブモード (63ページ参照)、測光モード (40ページ参照) および内蔵ストロボの機能 (92、93ページ参照) を選びます。
4. オートブラケットリングを使用したい場合は、表示パネルに  を出しておきます。(72ページ参照)
5. モードダイヤルを **PF** 位置に合わせ、モードセットボタンを押しながら **ML** ボタンを2秒間押し続けると表示パネルに **HL** と **U5** が表示され、選んだ各モードの内容が記憶されます。

記憶させた組み合わせを呼び出します。

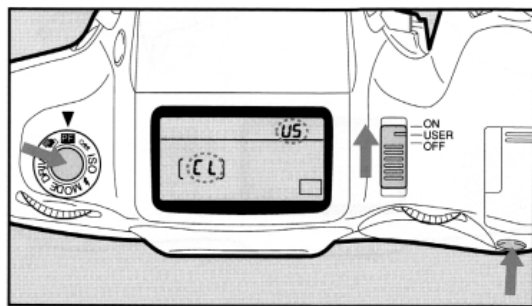
電源スイッチを **USER** 位置にするだけで、いつでも記憶させた組み合わせにすることができます。

応用的な使い方

- * 同じ操作で設定を行なわない限り、電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、記憶させた機能以外に切り替えることはできません。
- * 電池を入れ替えても設定した内容は記憶されています。

ユーザーセット機能一覧

露出モード	絞りA位置とA位置以外でのおの1つを選択可
ドライブモード	ドライブモードの内の1つを選択可
測光モード	分割、中央重点、スポットの内の1つを選択可
内蔵ストロボモード	先幕シンクロ、赤目軽減、後幕シンクロの1つを選択可
ストロボ光量補正	可 (どれか1つでもユーザーセットを行なえば使用可)
露出補正	可 (どれか1つでもユーザーセットを行なえば使用可)
オートブラケットリング	選択可能
プログラムライン	ノーマル、高速優先、深度優先、MTF優先の1つを選択可

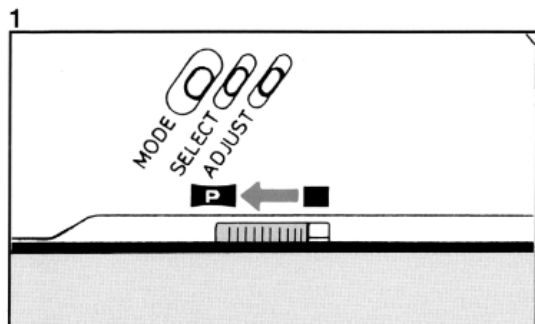


設定をクリアします

電源スイッチをユーザーポジション **USER** にし、モードダイヤルを **PF** に合わせます。モードセットボタンを押しながら **IF** ボタンを2秒間押し続けると表示パネルに **CL** と **U5** が表示され設定がクリアされます。

* このとき電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

* 電源スイッチが **ON** 位置でこの操作を行なうと、ペンタックスファンクションがクリアされてしまいますのでご注意ください。

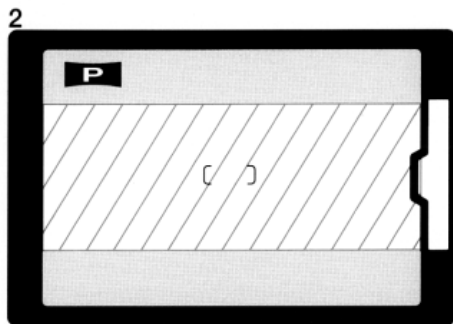


「Z-1P」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **P** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

* パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影 か標準撮影 どちらかの止まる位置まで確実に動かしてください。



2. 撮影します

パノラマの視野枠内(斜線部分)に写したいものを入れて撮影してください。

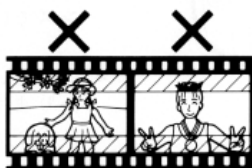
- * シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に が表示されます。
- * プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
- * パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。



- * パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。
- * パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。



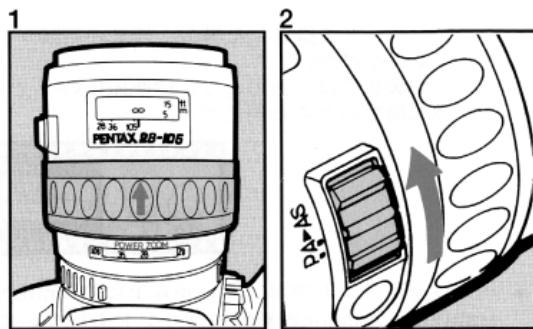
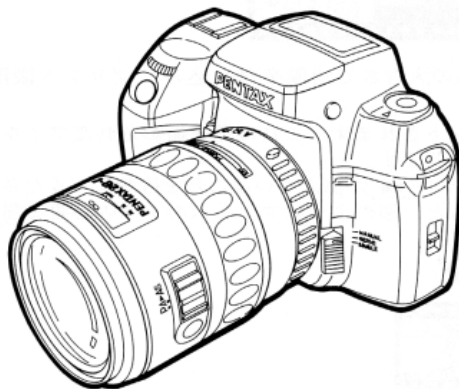
- * パノラマプリントでは、フィルム上に約13mm×36mmの大きさに画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。
- * パノラマプリントはおよそ89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。
- * 標準撮影のときは、必ずファインダー内のパノラマシグナル  が消えていることを確認してください。パノラマ撮影になっていることに気が付かずに撮影すると、図のようにフィルムの上下の必要部分がカットされてしまいます。



(10) パワーズームの拡張機能

F AズームレンズをZ-1Pと組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

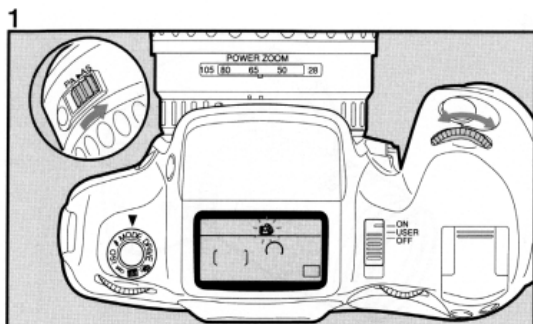
- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード



オートズーム機能を使うための準備

1. 図のように **POWER ZOOM** が見える状態にします。
2. レンズのオートズームスイッチを **A** (一部のレンズでは **AZ**) に合わせます。

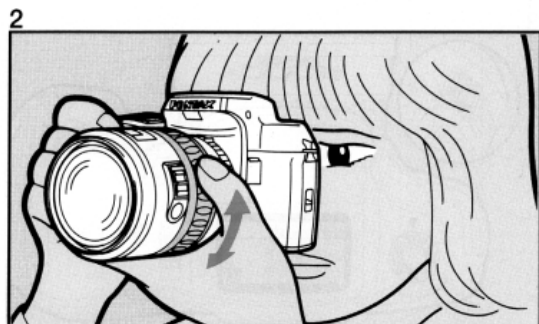
* これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶しておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

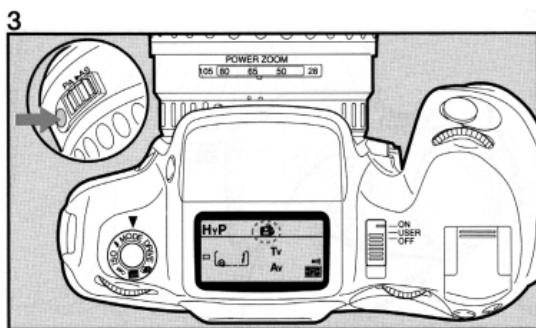
例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲（焦点距離）を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。



1. レンズのオートズームスイッチを **AS**（一部のレンズでは **MODE**）側に押し付けたまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルの 表示を点滅させてください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

* このとき、自動的にピント合わせも行われません。ただし、 表示と合焦音は出ません。（ペンタックスファンクション NO. 13 で変更可）

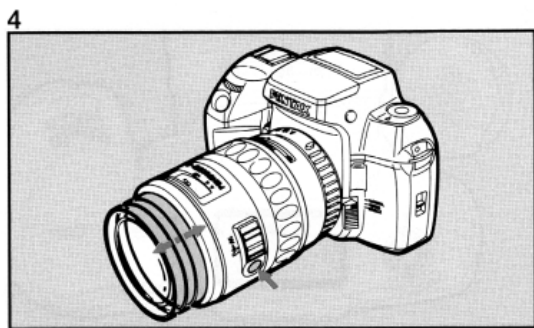
応用的な使い方



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの 表示が点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* 電源スイッチを **OFF** にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。



4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

* ズームセットボタンを押すと自動的にピント合わせも行われます。ただし、 表示と合焦音は出ません。

* ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P**（一部のレンズでは **PZ**）に戻してください。

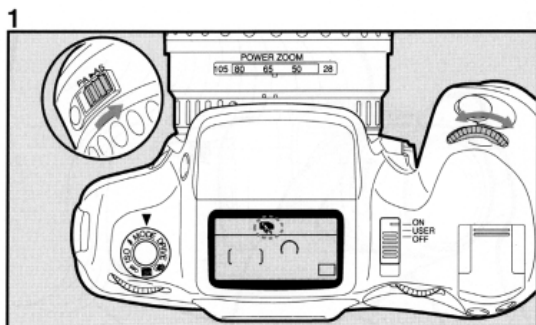
* レンズを外すと、記憶していた内容は消えてしまいますので、ご注意ください。

応用的な使い方

②イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ(撮影倍率)をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ(撮影倍率)になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

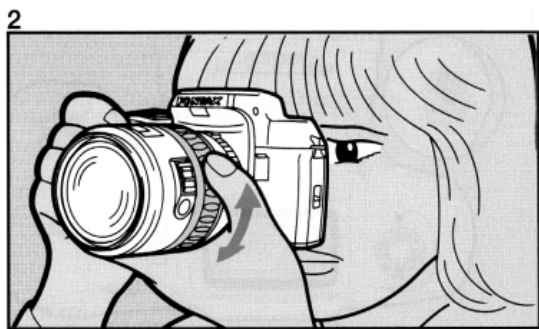
例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさで撮影することができます。



1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま T v ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに  マークを出します。

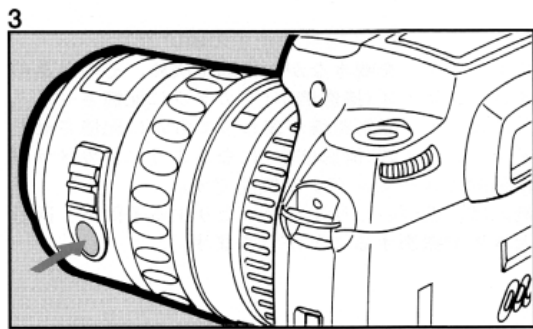
- * フォーカスモードレバーが **MANUAL** になっていると、イメージサイズ指定モードは使えません。
- * イメージサイズ指定モードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

応用的な使い方



2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを操作して好みの位置までズーミングします。

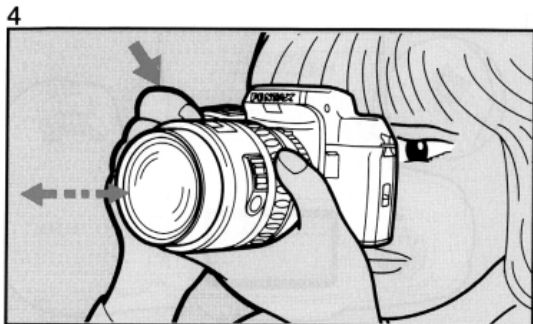
- * このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、 マークと合焦音は出ません。(ペンタックスファンクション NO. 13 で変更可)



3. レンズのズームセットボタンを押すと、再び自動的にピント合わせが行なわれ、ピントが合うとその時点のイメージサイズをカメラが記憶します。

- * 新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は消えてしまいます。
- * ピントが合うとファインダー内の  が光って電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクション NO. 1 で変更可)

応用的な使い方



4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズーミングします。

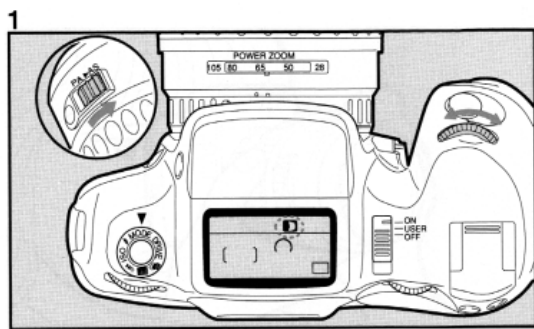
* ズーミング中にシャッターボタンを押し切ってしまうと、指定したイメージサイズになりません。シャッターボタンは、ズーミングが終了してから押し切ってください。

- * 電源スイッチを **[OFF]** にしても、記憶されている内容は消えません。
- * レンズを外すと、記憶していた内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- * イメージサイズを決めるときには、使用するズームレンズの中間付近に焦点距離を設定すると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、焦点距離が28～80mmのレンズでしたら焦点距離を50mm付近にすると便利です。
- * 電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- * 被写体が動体の場合は、イメージサイズが一定にならないことがあります。
- * 撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズの焦点距離の作動範囲を超えてしまい、指定したイメージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズで制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。

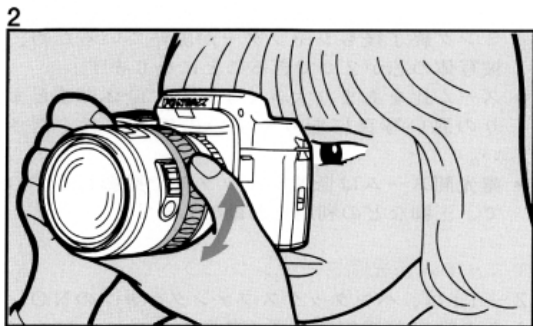


③露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側（ペンタックスファンクションNO. 14で変更可）にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

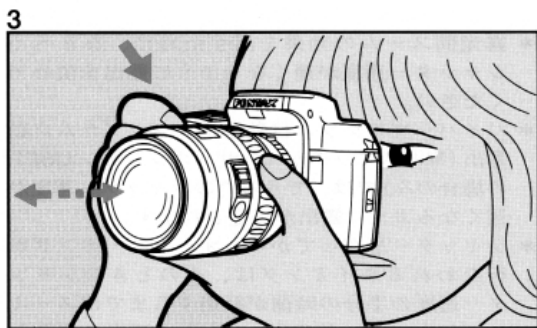


1. レンズのオートズームスイッチを **[AS]**（一部のレンズでは **[MODE]**）側に押し付けたままT vダイヤレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[D]** 表示を出してください。
- * 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **[P]**（一部のレンズでは **[PZ]**）に戻してください。
- * 露光間ズームモードでは、内蔵ストロボのみを使用する場合を除き、ストロボを後幕シンクロにセットしても先幕シンクロで制御されます。



2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

- * 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。
- * ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。
- * シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。



3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

- * シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mmレンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズー

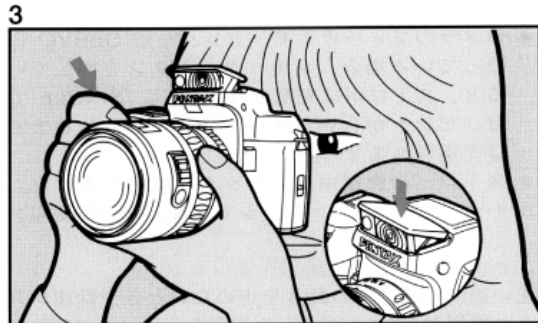
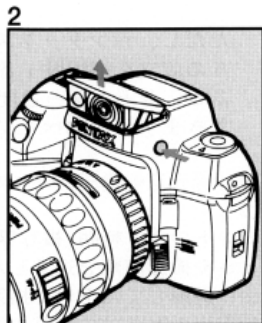
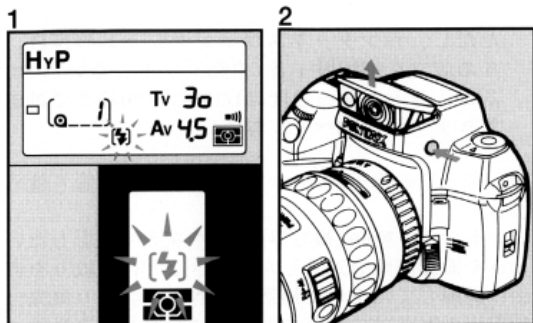
ミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

- * ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。
- * 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

マニュアル露光間ズーミングについて

Z-1Pは、ペンタックスファクションのNO. 15の設定が選択肢1番(露光中のマニュアルパワーズーミングが可能)に設定してある場合(109ページ)は、露光中でも、撮影者が自由にパワーズームで焦点距離を変えることができます。ズーミング速度やタイミングを自分で調整できますので、工夫次第で面白い写真が作れます。

- * マニュアル露光間ズーミングを行なうときは、オートズームスイッチを **[P]** (一部のレンズでは **[PZ]**) にして通常のパワーズームで使う状態にします。



Z-1 Pの内蔵ストロボは、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイパープログラム自動露出し、シャッターボタンを半押しすると、周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルとファインダー内の  が点滅して、ストロボの使用を勧めます。
2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに  が表示されます。シャッターボタンを

半押しすると、ファインダー内にも  が表示されます。

3. シャッターボタンを押し切って撮影をします。

* 明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、A レンズ以前のレンズ使用時は、低速限界は1/60秒になります。

* 撮影後、内蔵ストロボはストロボ上部の矢印部分を押し込んで収納してください。

応用的な使い方

90

* カメラのフォーカスモードレバーが **SERVO** になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。 **SINGLE** では、ピントが合いフォーカスロックされるまでは充電されません。

* ストロボの充電中はシャッターは切れません。(ペンタックスファンクション NO. 10 で変更可)

シャッター優先自動露出を使うとき

速い速度の被写体の動きを止めたいときや低速シンクロ撮影(95ページ参照)のときなどに、1/250秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* ハイパープログラム自動露出からTvダイレクトダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

ただし、ペンタックスファンクションのNO. 5の設定を選択肢1番(自動シフトしない)にすると、シャッター速度は1/250秒～30秒まで設定できます。(105ページ参照)

絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときや撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出

* 明るさによってシャッター速度が1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、A レンズで絞りA位置の場合は、低速限界は1/60秒になります。また、A レンズで絞りをA位置以外にした場合とA レンズより前のレンズ使用時は、1/250秒固定となります。ハイパーマニュアルで **IF** ボタンを押したときも同様です。

応用的な使い方

- * ハイパープログラム自動露出からAvダイレクトダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値の範囲は、シャッター速度が変化する範囲です。ただし、ペンタックスファクションのNO.5の設定を選択肢1番(自動シフトしない)にすると絞りは開放から最小絞りまで設定できます。(105ページ参照)

ハイパーマニュアル露出

- * 絞りやシャッター速度(1/250秒以下)を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- * ペンタックスファクションのNO.7の設定を選択肢1番(ハイパーマニュアルで「IF」ボタンを押したときに背景が適正露出になるよう)に設定しておく(106ページ参照)、シャッター速度が低速まで変化しますので、低速シンクロにご利用いただけます。(95ページ参照)

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 4.9$ (注)
 ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなります。

※ GN = ガイドナンバー

注：割り算で使った数値の「4.9」は、Z-1Pの内蔵ストロボを単独で使った場合にのみ適用される数値です。

撮影距離から使用絞りを計算します

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方(2.8)にします。

なお、GNは使用するフィルム感度(ISO)により下の表のようになります。

ISO25 → GN 7	ISO200 → GN 20
ISO50 → GN 10	ISO400 → GN 28
ISO100 → GN 14	

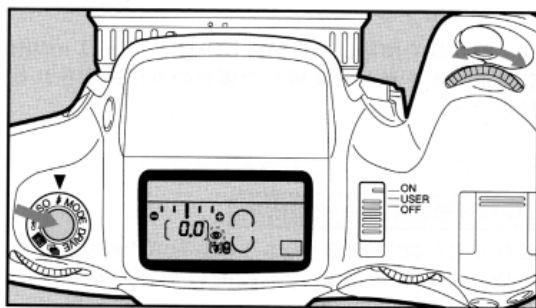
ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します。

$$GN 14 \div F 3.5 = 4$$

$$4 \div 4.9 = \text{約} 0.8$$

従って、約0.8mから4mの範囲でストロボが使えます。



赤目軽減機能について

Z-1Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光(小光量)が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

セット方法

モードダイヤルを  に合わせ、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

- * ユーザーポジションでは赤目軽減機能は使用できません。ただし、ユーザーポジションへの

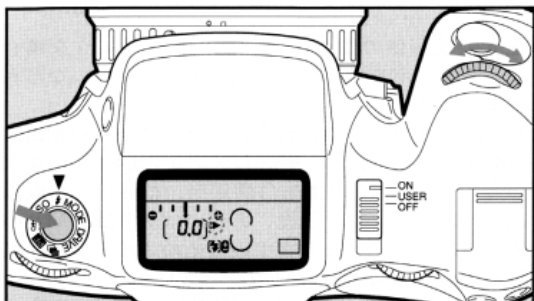
ユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)

- * 赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- * 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに  が表示されていてもストロボ2度発光による赤目軽減機能は働きません。
- * 赤目軽減機能の解除は、セット時と同様に表示パネルの  表示を消してください。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するため起こる現象と言われています。

赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。



内蔵ストロボの後幕シンクロ

Z-1 Pでは、内蔵ストロボの後幕シンクロができます。

後幕シンクロでは、後幕が走行を始める直前にストロボが発光します。通常の先幕シンクロでは、先幕の走行が終わった時点でストロボが発光します。このため、後幕シンクロで低速シャッターを利用すると、動く被写体の光跡を後ろに流れるように写し込むことができます。

セット方法

モードダイヤルを に合わせ、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

- * ユーザーポジションでは後幕シンクロは使用できません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)
- * 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに が表示されていても後幕シンクロは動きません。
- * 内蔵ストロボを後幕シンクロに、外付けストロボを先幕シンクロにして同時に使用した場合、外付けストロボも後幕シンクロで制御されます。ただし、旧タイプの後幕シンクロ機能のないストロボでは、両ストロボとも先幕シンクロで制御されます。
- * 後幕シンクロの解除は、セット時と同様に表示パネルの 表示を消してください。
- * 内蔵ストロボの後幕シンクロでは、シャッター速度の上限は1/125秒になります。



ストロボなし



ストロボ使用(日中シンクロ)

日中シンクロについて

逆光で被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

* 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。



低速シンクロについて

暗い背景で人物撮影をするとき、ストロボを利用すると、人物にはストロボ光が当たり、背景も遅いシャッター速度でバランス良く写せます。露出モードは、ハイパーマニュアル露出とシャッター優先自動露出が使えます。

ハイパーマニュアル露出の場合

1. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
2. ハイパーマニュアル露出にします。
3. 適正露出になるようにシャッター速度と絞りを選んでください。(49ページ参照)

4. 撮影します。

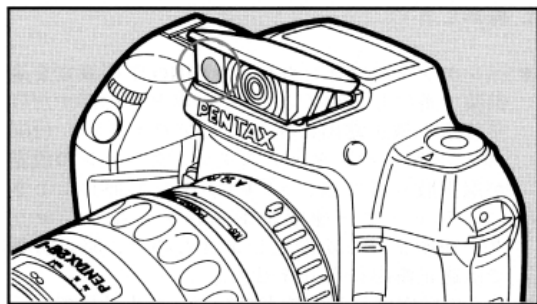
- * ペンタックスファクションのNO.7の設定を選択肢1番にしておくと、**[IF]**ボタンを押すだけで背景を適正露出にすることができます。(106ページ参照) ペンタックスファクションの設定が選択肢0番では、**[IF]**ボタンを押したときに、シャッター速度が手ぶれをしないシャッター速度までしか変化しませんので、暗い背景では適正露出になりません。

- * 「1.」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

1. シャッター優先自動露出にします。
2. 1/250秒以下の好みのシャッター速度を選びます。
3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
4. 撮影します。

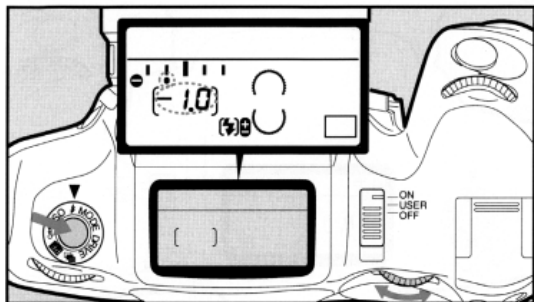
- * 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。



AFスポットビームについて

暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光(AFスポットビーム)を自動的に投光して約1～6mの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

- * AFスポットビームが働くのは、フォーカスモードレバーが**[SINGLE]**の場合だけです。
- * ストロボを使いたくないときは、ビントが合ったところでフォーカスロックしたまま、内蔵ストロボを収納してください。
- * AF330FTZなど、外付けストロボのAFスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのAFスポットビームは働きません。
- * 明るいところでは、AFスポットビームは作動しません。



Z-1Pでは、背景の明るさを変えずに内蔵ストロボおよび外付けストロボの光量だけを変えることができます。

セット方法

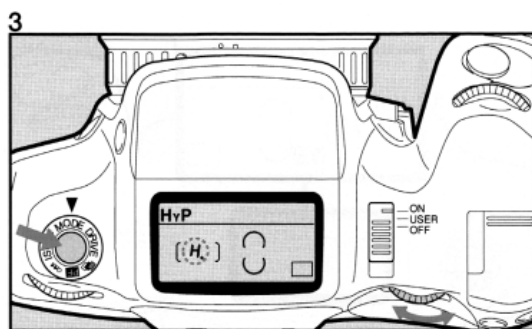
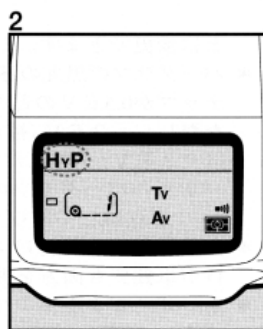
モードダイヤルを に合わせ、モードセットボタンを押したままAvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選んでください。

- * モードセットボタンを押すと、表示パネルに補正值、バググラフ、 および が表示されます。
- * 補正は-3 ~ +1 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに

とに変更できます。(104ページ参照)

- * バググラフの黒丸の移動量1つが0.3 EV (補正ステップが0.5 EVのときは0.5 EV) に相当します。ただし、-2 EV (補正ステップが0.5 EVのときは-3 EV) を越えた値を設定した場合は、表示パネルのバググラフの (ファインダー内は) が点滅して知らせます。
- * 光量補正は、外付けストロボあるいは内蔵ストロボ単独でも両方を併用しても使えます。
- * ユーザーポジションでは光量補正は使用できません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)
- * 光量補正の解除は、セット時と同様に補正值を0にしてください。
- * 補正中は、表示パネルおよびファインダー内に が表示されます。
- * 電源スイッチを切ったり、他のモードにしても補正は解除されません。
- * 被写体の明るさや距離によっては、設定した補正值どおりに補正がされないことがあります。
- * 露出補正と組み合わせると、背景の明るさとストロボの光量を別々に変えることができます。ただし、光量の補正量は露出補正值と光量の補正值を加えた値になります。

(13) 好みのプログラムラインを選びます

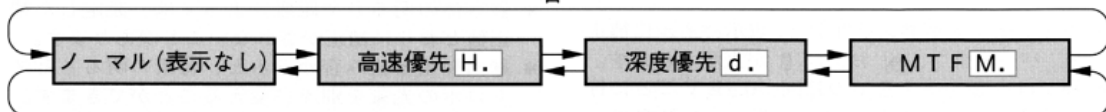


Z-1Pでは、ノーマルプログラムラインの他に、高速優先プログラムライン・深度優先プログラムライン・MTFプログラムラインを選ぶことができます。

設定方法

1. モードダイヤルを **MODE** に合わせます。
2. 露出モードをハイパープログラム自動露出にします。(46ページ参照)
3. モードセットボタンを押しながらAvダイレクトダイヤルを回すと下図のようにプログラムラインを選ぶことができます。

右へ



左へ

ノーマルプログラムライン

ノーマルプログラムラインは基本となるプログラム自動露出です。

高速優先プログラムライン

高速優先プログラムラインはなるべく速いシャッター速度が切れるよう高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。

深度優先プログラムライン

深度優先プログラムはなるべく絞りを絞り込んで撮影できるように小絞りを優先したプログラム自動露出です。

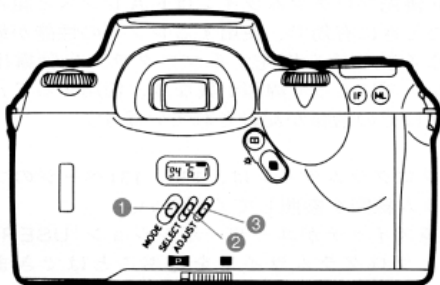
MTF優先プログラムライン

MTF優先プログラムラインはF A レンズと組み合わせたときに有効で、使用するレンズの性能が最も良くなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。レンズによって線図が異なり、使用するF A レンズ内にその情報が記録されています。

- * 各プログラムラインは、130、131ページのプログラム線図を参照してください。
- * 電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、プログラムラインを選ぶことはできません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、露出モードをハイパープログラムに設定する場合は、設定時にプログラムラインも含めて選ぶことができます。

応用的な使い方

(14) クォーツデータのデータ修正



- ① = **MODE** ボタン
- ② = **SELECT** ボタン
- ③ = **ADJUST** ボタン

データの修正方法

1. ②の **SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→時
時分表示のとき 時→分→→
 2. ③の **ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。
- * **ADJUST** ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。
 - * データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

応用的な使い方



写真の数字はハメ込み合成です。

「年月日」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

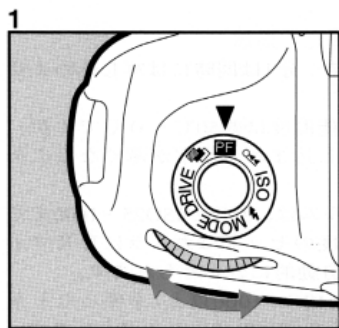
「日時：分」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押し、時・分・「:」表示のうち修正したい数字[秒の場合は:]を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒「:」を合わせるには、③の[ADJUST]ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデイト使用上の注意

- * 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
- * デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム(ISO 1000以上)を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中(点滅表示中)は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- * パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。
- * クォーツデイトは、3Vリチウム電池 CR2025 を使用しています。
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。(有料)

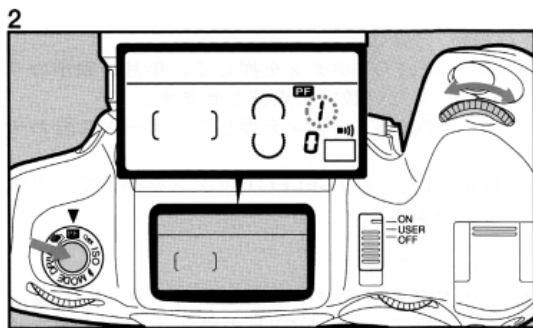
(15) ペンタックスファンクション



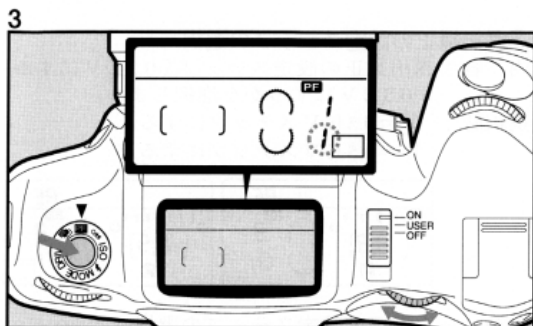
Z-1 Pには、使用目的に合わせてユーザー自身がカメラの機能を選択できる、15項目からなるペンタックスファンクション機能があります。

ペンタックスファンクションの設定方法

1. モードダイヤルを [PF] に合わせます。

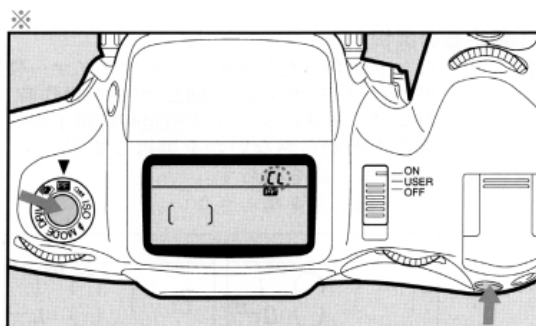


2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して設定したいファンクションナンバーを選択してください。



3. モードセットボタンを押したままA v ダイレクトダイヤルを回して、ファンクションの内容を選択してください。

- * ファンクションの内容は、数字の「0」・「1」などを選択する方式になっています。詳しくは、各ファンクションナンバーの説明をご覧ください。
- * 工場出荷時は、ファンクション内容がすべて(0)になっています。



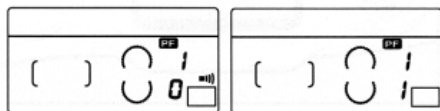
※ ペンタックスファンクションをクリアします。
電源スイッチをONに、モードダイヤルをPFボタンを押したままIFボタンを約2秒間押し続けると、表示パネルにCLが表示されてペンタックスファンクションの設定がクリアされます。このとき「ビビッ」と電子音が鳴ります。

応用的な使い方

①電子音の選択

内容：ピントが合ったときや、セルフタイマー使用時、IFボタン、MLボタン操作時および、イメージサイズ指定時に電子音を鳴らすか鳴らさないかを選択します。

選択肢：0 = 電子音を鳴らす。
1 = 電子音を鳴らさない。

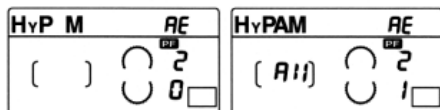


②露出モードの選択

内容：電源スイッチがONのときに使用できる露出モードを選択します。

選択肢：0 = 絞りがA位置ではハイパープログラムとハイパーマニュアル、絞りがA位置以外では絞り優先自動露出とハイパーマニュアルのみ使用できます。

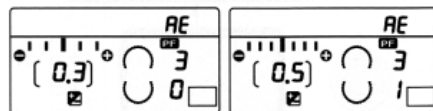
1 = 全ての露出モードが使用できます。



③露出補正の設定ステップの選択

内容：露出補正の設定ステップを0.3EVにするか0.5EVにするかを選択します。

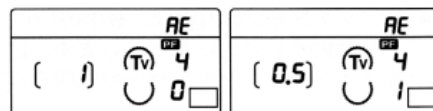
選択肢：0 = 0.3EVステップにする。
1 = 0.5EVステップにする。



④シャッター速度設定ステップの選択

内容：シャッター速度のステップを1EVにするか、0.5EVにするかを選択します。

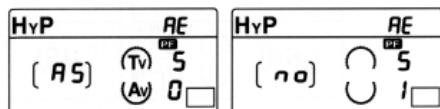
選択肢：0 = 1EVステップにする。
1 = 0.5EVステップにする。



⑤ハイパープログラム時にTvおよびAvの自動シフトの選択

内 容：ハイパープログラム自動露出で使用时、ハイパー機能で設定したシャッター速度または絞り値が連動範囲を超えたときにTv（シャッター速度）あるいはAv（絞り値）を自動的にシフトして適正露出を得るようにするか、シフトしないで警告表示を出す（この場合は適正露出にはなりません）かを選択します。

選択肢：[0]=TvおよびAvを自動的にシフトする。
[1]=自動シフトをしないで、警告表示をする。



⑥ハイパーマニュアル時にIFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：レンズ絞りを「A位置」にしてハイパーマニュアルを使用時、IFボタンを押して適正露出を得るときの機能を選択します。

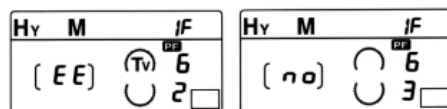
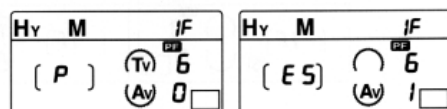
選択肢：[0]=プログラムライン上の適正露出値を得ます。

[1]=Av（絞り値）を固定して、Tv（シャッター速度）をシフトして適正露出を得ます。

[2]=Tv（シャッター速度）を固定して、Av（絞り値）をシフトして適正露出を得ます。

[3]=絞り、シャッター速度ともシフトしない。（IFボタン操作を無効にする）

備考：レンズの絞りリングがA位置以外では、IFボタンを押すと常にシャッター速度だけがシフトします。ただし、選択肢が「3」のときのみIFボタンを押してもシャッター速度はシフトされません。



応用的な使い方

⑦ハイパーマニュアル、250（1/250秒）で内蔵および外付けストロボ使用時に、充電完了後IFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：ハイパーマニュアル、250（1/250秒）で内蔵および外付けストロボ使用時に、充電完了後IFボタンを押したときにTv（シャッター速度）およびAv（絞り）をストロボのプログラムライン上で変化させるか、背景に対して適正露出を得るように変化させるかを選択します。

選択肢：[0]=ストロボのプログラムライン上にシフトします。
[1]=背景が適正露出になるようにシフトします。



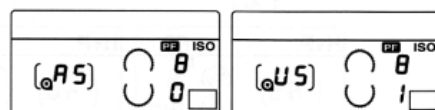
⑧フィルムローディング時のフィルム感度設定の選択

内 容：フィルムを入れて、ローディングを行なったときに、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度の読み込みをするか、しないかを選択します。

選択肢：[0]=DXにより自動的に読み込みを行う。

[1]=DXにより自動的に読み込みを行わない。

備考：設定を「1」にした場合には、ISO感度は前回の値がそのままになります。

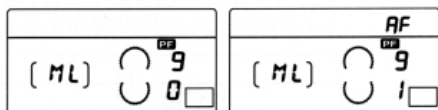


⑨ ML ボタンの機能選択

内 容：フォーカスモードレバーが **SINGLE** のとき、**ML** ボタンを押したときに、オートフォーカス作動（合焦後、フォーカスロック）させてから露出値を固定するか、露出値のみ固定するかを選択します。

選択肢：**0** = **ML** ボタンを押すと露出値のみ固定する。

1 = **ML** ボタンを押すとオートフォーカスが作動し、フォーカスロックすると共に露出値を固定する。

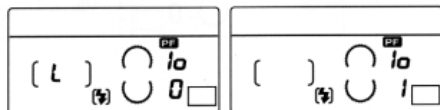


⑩ 内蔵ストロボ未充電時のリリース優先順位の選択

内 容：内蔵ストロボが充電する前にシャッターボタンを押し切ったときに、シャッターが切れない（リリースロック）ようにするか、充電前でもシャッターが切れる（リリースできる）ようにするかを選択します。

選択肢：**0** = 内蔵ストロボが充電するまでリリースを禁止する。

1 = 内蔵ストロボ充電中でもリリースを可能にする。



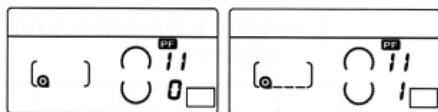
応用的な使い方

⑪ フィルム巻き戻し完了時状態の選択

内 容：フィルム巻き戻し完了時に、フィルムのリーダー（先端）部分をバトロネに巻き込むか、若干残すかを選択します。

選択肢：**0** = フィルムを完全にバトロネへ巻き込む。

1 = フィルムのリーダー部分を若干残す。



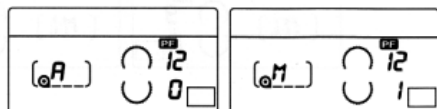
⑫ フィルム終了時の機能選択

内 容：フィルムの最後まで撮影したときに、自動的に巻き戻しを行なうか、途中巻き戻しと同様に手動で巻き戻しを開始するかを選択します。

選択肢：**0** = 自動的に巻き戻しを開始する。

1 = 手動で巻き戻しを開始する。

備 考：**1** に設定した場合、フィルムの最後まで撮り終わると表示パネルの枚数表示とフィルム給送マークが点滅状態になり、フィルムの巻き戻し操作以外はできなくなります。フィルムを巻き戻すには「途中巻き戻し」（21ページ）と同じ操作をします。

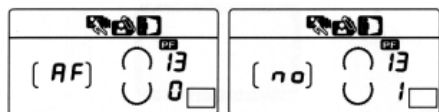


⑬パワースーム作動時のピント合わせの選択

内 容：パワースームでズーミングを行ったときにピント合わせを同時に行うか、行わないかを選択します。

選択肢：[0] = ピント合わせを行う。

[1] = ピント合わせは行わない。

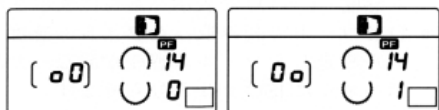


⑭露光間ズームモードのズーミング方向の選択

内 容：露光間ズームモードを使用時に、広角側から望遠側にオートズームをするのか、望遠側から広角側にオートズームするのかを選択します。

選択肢：[0] = 広角側から望遠側にオートズームする。

[1] = 望遠側から広角側にオートズームする。



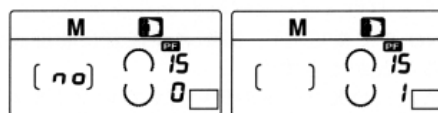
⑮露光中のパワースーム作動の選択

内 容：シャッターボタンを押し切って、露光中（シャッターが開いている間）にズームリングを回してパワースームを作動できるようにするか、露光中はパワースームの作動をさせないかを選択します。

選択肢：[0] = 露光中はパワースームの作動を禁止する。

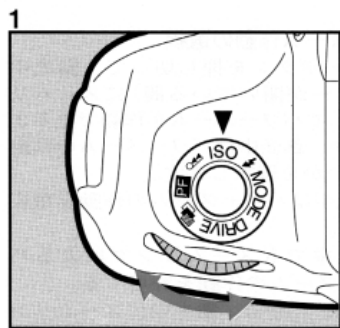
[1] = 露光中でもズームリングによるパワースームの作動を許可する。

備 考：[1]を選択した場合、露光中にズームリングによってパワースームを作動させる場合は、レンズのオートズームスイッチを[P]（一部のレンズでは[PZ]）にしてください。



応用的な使い方

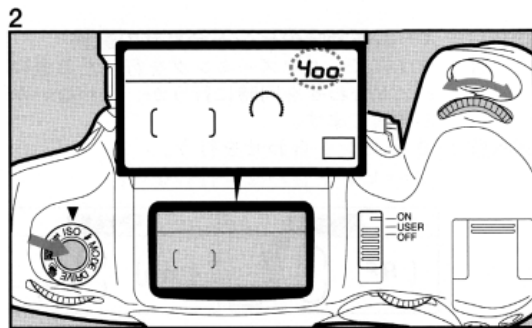
(16) フィルム感度 (ISO) のマニュアル設定



応用的な使い方

Z-1Pは、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができますが（ペンタックスファンクションNO.8で変更可）、撮影者が任意に感度設定をすることができます。

また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。設定をしないと、前回設定されたISO感度になってしまいます。



変更方法

1. モードダイヤルをISOに合わせます。
2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。

- * モードダイヤルをISOに合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度（ISO）が表示パネルに表示されます。
- * DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルにISOが出て知らせます。

カメラの内蔵ストロボでは光量が不足するときは、外付けストロボを利用してください。(結婚披露宴やパーティーなどで便利です)

TTLオートモード付きストロボを使います。

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードはハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の[]が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
5. ピントを合わせて撮影します。

* 充電が完了すると、周りの明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただ

し、Aレンズ以前のレンズ使用時は低速限界は1/60秒になります。

- * カメラの露出モードをシャッター優先自動露出やハイパーマニュアル露出にすると、シャッター速度や絞りを自由に選んで(シャッター優先ではシャッター速度のみ)ストロボ撮影ができますので、ピントの合う範囲を変えたり、ぶれの効果を変えたいときなどにご利用いただけます。
- * スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっている場合があります。このタイプでは、Z-1_Pと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、大型ストロボでは、後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度での使用をお勧めします。

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、112ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE BとTYPE CあるいはTYPE DとTYPE Eの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○注1	
ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。(注2)	○	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。(注3)		○			

TYPE A : 内蔵ストロボ

TYPE B : AF330FTZ、AF500FTZ(注4)

TYPE C : AF400FTZ、AF240FT

TYPE D : AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA

TYPE E : AF200S、AF160、AF140

注1 : AF200SAは不可。

注2 : 1/125秒以下になります。

注3 : 1/60秒以下になります。

注4 : マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

* TYPE D (AF200SAを除く)のストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。ハイパープログラム、プログラム(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)およびシャッター優先自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。

AF500FTZ、AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(89ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手の被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。(F・F Aレンズのみ)
- スレーブ機能(コードレス)がご利用になれます。(AF500FTZのみ)
- マルチ発光モードがご利用になれます。(AF500FTZのみ)
- 光量比制御モードがご利用になれます。(114ページ参照)
- カメラがハイパープログラム、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。

- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(90ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手の被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- 明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は、低速限界は1/60秒になります。
- 外光オート(赤・緑・黄位置)で使用すると、絞りがA位置のままでも絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒~1/60秒に変化します。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F 2.8	F 4	F 4
緑	F 5.6	F 8	F 8
黄			F 11

(ISO 100の場合)

ストロボ撮影[使用上]の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせると同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

1. AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

* AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF (AF330FTZでは2個)と延長コードF 5Pをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。

Z-1Pには、各種専用アクセサリが用意されています。詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

● ケーブルスイッチ F

Z-1P、MZ-3、MZ-5、MZ-10および645N等に使えるリリースコード。手ぶれ防止やバルブ撮影に使用します。

● マグニファイヤー F B

ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリ。

● オートストロボ AF500FTZ

ガイドナンバー 50 の AF スポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレープ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● オートストロボ AF330FTZ

ガイドナンバー 33 の AF スポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● ホットシューアダプター F、延長コード F 5 P
AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZ・AF500FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

● A F アダプター 1.7X

F 2.8より明るい K A・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

● マクロストロボ AF140C

ガイドナンバー 14 の接写用ストロボ。

● グリップストラップ F D P

カメラのホールディングを確実にするグリップ。

● レフコンバーター A

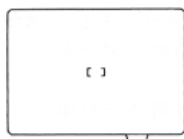
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリ。倍率は1倍と2倍の切り替え式。

● フィルター

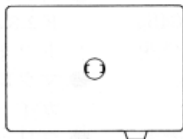
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。

● フォーカシングスクリーン

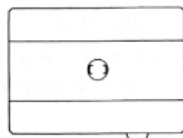
F F-60 (AF フレームマット)
一般撮影用



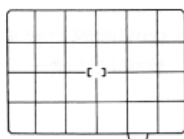
F S-60 (センタースポット)
スポット測光用フレーム付



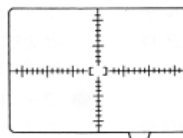
F M-60 (パノラマスポット
マット)
パノラマ視野枠、スポット測光
フレーム付



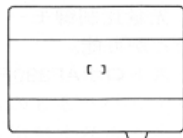
F G-60 (方眼マット)
構図設定用 (6mm間隔の方眼付)



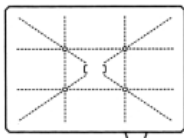
F I-60 (スケールマット)
フィルム面上の像サイズ設定用
(1mm目盛のスケール付)



F P-60 (パノラママット)
パノラマ視野枠付



F K-60 (黄金分割マット)
構図設定用 (黄金分割点・フレー
ミングライン付)



アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」を使用する際は、ダブルレリーズが使用できませんので、「ケーブルスイッチF」をお使いください。
縦位置での撮影は、カメラのグリップ側を下にするとオートベローズAへの取り付けができませんので、グリップ側を上にしてください。
ただし、この場合にはケーブルスイッチFが使用できなくなりますので、横位置での撮影をお勧めします。
- 「PENTAX-F ★300mm F4.5 ED (IF)」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがありますので、縦位置にするときにはグリップ側を上になしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディに装着する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディに装着する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 微動装置Ⅲ型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z-1Pでは形状が合わず直接当てるとボディに傷が付くことがありますので使用しないでください。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。

MEMO



高速シャッター



低速シャッター

写したい物(被写体)の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速シャッター速度で写すと動感のある写真になります。

応用的な使い方



小絞り側



開放絞り側

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束(光の太さ)を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

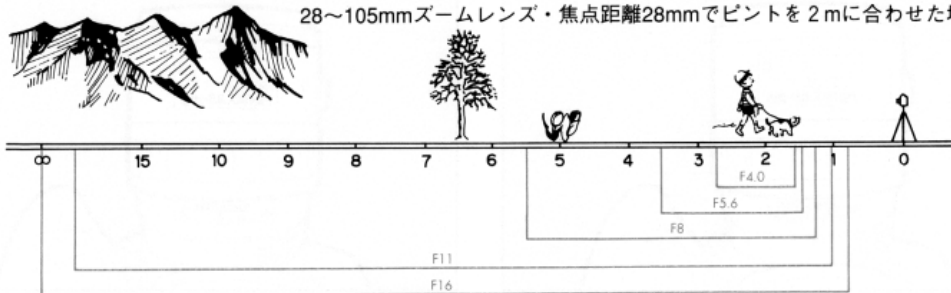
絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントが合わせることができます。

応用的な使い方

28~105mmズームレンズ・焦点距離28mmでピントを2mに合わせた場合



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度(ピントの合う範囲)は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

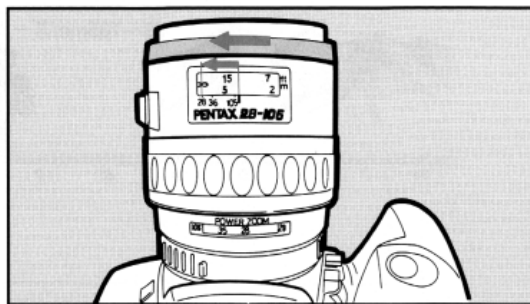
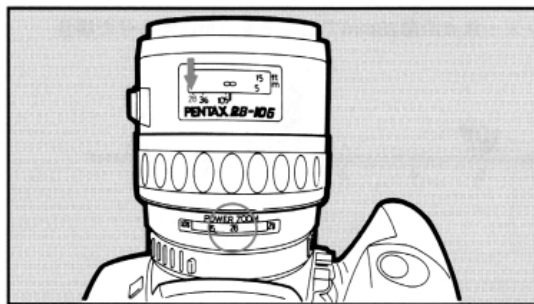
絞りを変えることによってピントの合う範囲(奥行)が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上入っていません。

プレビューボタンについて

被写界深度は、絞りがA位置以外になっていればプレビューボタンを押すことでファインダー内で確認できます。プレビューボタンを押すとセットした絞り値まで絞りが絞られます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られませんのでご注意ください。

(22) 赤外線指標について



赤外線フィルムと「R2」や「O2」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影(可視光線)とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。

補正方法

一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを「MANUAL」にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを28の赤外線指標(赤線)までずらします。

* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、124 ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性のあることを示すマークです。

⊘ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

その他について

⚠ 警告

- ⊘ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⊘ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⊘ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようご注意ください。
- ⊘ 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特にレンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- ⚠ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- ⊘ 電池をショートさせたり、火の中に入れてください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- ・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- ・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- ・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- ・レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- ・マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。
- ・高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- ・カメラの使用温度範囲は-10℃~50℃です。
- ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

LCD(液晶)表示について

- * 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- * 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなったり、消えることがあります。これは液晶の性質によるもので、常温に戻れば正常になります。

その他について

3) こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症 状	原 因	処 置	参照ページ
シャッターが切れない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	バッテリー警告  が出ている。	電池を交換してください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物(被写体)にAFフレーム  が合っていない。	被写体をAFフレーム  に入れて撮影してください。	29ページ
	被写体に近づきすぎている。	被写体から離れてください。	29ページ
	フォーカスモードレバーが MANUAL になっている。	フォーカスモードレバーを SINGLE か SERVO にしてください。	28ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体。	フォーカスロックを使うか、マツ部分でのピント合わせをしてください。	31ページ 37ページ
ファインダー内の  が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な被写体などのためピント合わせができない。	フォーカスロックを使うか、マツ部分でのピント合わせをご利用ください。	31ページ 37ページ
内蔵ストロボが充電しない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
	フォーカスモードレバーが SERVO でシャッターボタンを押している。	シャッターボタンから指を離してください。	90ページ
フォーカスロックができない。	フォーカスモードレバーが SERVO になっている。	フォーカスモードレバーを SINGLE にする。	28ページ
1コマ撮影以外のドライブモードが使えない。	電源スイッチがユーザーポジション USER になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ
オートブラケットングができない。	電源スイッチがユーザーポジション USER になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ
ハイパープログラム自動露出にならない	電源スイッチがユーザーポジション USER になっている。	電源スイッチを ON にする。	15ページ

その他について

症 状	原 因	処 置	参照ページ
ハイパーマニュアルにならない。	電源スイッチがユーザーポジション[USER]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
露出補正がセットできない。	電源スイッチがユーザーポジション[USER]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
ズームクリップモードにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	80ページ
	レンズのオートズームスイッチが [P] になっている。	レンズのオートズームスイッチを [A] にする。	80ページ
イメージサイズ指定モードにセットできない。	カメラ側のフォーカスモードレバーが [MANUAL] になっている。	カメラ側のフォーカスモードレバーを [SINGLE] か [SERVO] にする。	83ページ
	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	80ページ
	レンズのオートズームスイッチが [P] になっている。	レンズのオートズームスイッチを [A] にする。	80ページ
パワーズームが動かない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	25ページ
撮影のときズームが勝手に作動する。	イメージサイズ指定モードになっている。	イメージサイズ指定モードを解除する。	83ページ
露光間ズームにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	80ページ
露光間ズームが作動しない。	焦点距離が最もテレ側(数字の大きい方)になっている。	焦点距離をワイド側(数字の小さい方)にする。	87ページ
ズームリングを回すとピント合わせをしてしまう。	パワーズームでズームリングを回すと自動的にピント合わせをします。	ペンタックスファンクションでピント合わせをしなくします。	109ページ

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してください。また、ミラーが上がったままになった場合は、電池を入れ直してから電源スイッチをONにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源スイッチをOFFにする、とミラーが下がります。これらを行ない、カメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

4) 主な仕様

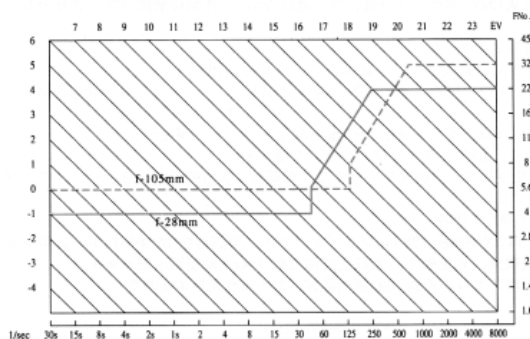
型式	TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF 35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm (パノラマ撮影時は13×36mm)
使用フィルム	35mmフィルム (J135パトローネ入り) 35mmDXフィルム=ISO25~5000 DXでないフィルムはISO6~6400
露出モード	ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出、バルブ、250 (1/250秒)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカスブレンディングシャッター オートシャッター=1/8000秒~30秒(無段階)、マニュアルシャッター=1/8000秒~30秒、バルブ、電磁リリーズ、電源スイッチ切りでシャッターロック
レンズマウント	ペンタックスバヨネットKAF2マウント(AFカプラー、レンズ情報接点、パワーズーム用電源ピン付きKマウント)
使用レンズ	KAF2、KAFマウントレンズ KA、Kマウントレンズ(AFアダプター使用でAF可能)
オートフォーカス機構	TTL位相検出式、オートフォーカス作動範囲Ev-1~18 (ISO100)、フォーカスロック可能、フォーカスモード= [SINGLE] 、 [SERVO] (動体予測可)、 [MANUAL] 、AFスポットビーム有
パワーズーム	F Aズームレンズとの組み合わせにより、3連パワーズーム・イメージサイズ指定・ズームクリップ・露光間ズームが使用可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、交換式ナチュラルブライトマツフォーカシングスクリーン、視野率92%、倍率0.8倍(50mm・∞)、視度調節式-2.5~+1.5m ⁻¹ (毎メートル)、パノラマ視野枠付、スポット測光エリア付
ファインダー内表示	フォーカス表示(FI=フォーカスインジケーション) [] 合焦表示(緑ランプ表示) 前ピン・後ピンおよび合焦不能表示(緑ランプ点滅)、シャッター速度=8000~30"表示、絞りはF1.2~90表示、 [] 点灯=外付けストロボ充電完了表示、 [] 点灯=内蔵ストロボ充電完了表示 [] 点滅=ストロボおためまたは不適切レンズ警告表示、バーグラフ=露出補正值、光量補正值、オートブラケット補正值、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、 [] =ストロボ光量補正表示、 [] =露出補正表示、 [] =メモリーロック表示、 [] =8分割測光表示、 [] =中央重点測光表示、 [] =スポット測光表示、 [] =パノラマシグナル
LCDパネル表示	[H/P] =ハイパープログラム自動露出表示、 [P] =プログラム自動露出表示、 [A] =シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出表示、 [H/M] =ハイパーマニュアル露出表示、 [bu] =バルブ表示、250 (1/250秒) 表示、 [] =イメージサイズ指定表示、 [] =ズームクリップ表示、 [] =露光間ズーム表示、シャッター速度=8000~30"表示、絞りF値=1.2~90、フィルム感度=6~6400、ISO表示、バルブ露出時間=1秒~59秒(1~59)・1分~59分(1~59の点滅)・1時間~9時間(1h~9hの点滅)、ストロボ光量補正值=-3~+1、ブラケット補正・露出補正の補正值=-4~+4、多重露出回数=2~9、バーグラフ=露出補正值、光量補正值、オートブラケット補正值、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、 [] =露出補正表示、 [] =パトローネ・フィルム走行マーク、 [] =電池消耗表示、フィルムカウンター=0~99、 [] =赤目軽減表示、 [] =内蔵ストロボ充電完了表示、 [] 遅い点滅=ストロボおため表示、 [] 速い点滅=不適切レンズ警告表示、 [] =ストロボ光量補正表示、 [] =後継シンクロ表示、 [] =8分割測光表示、 [] =中央重点測光表示、 [] =スポット測光表示、 [] =ペンタックスファンクション表示、 [] =プザー表示、 [] =1コマ撮影表示、 [] =連続撮影表示、 [] =セルフタイマー表示、 [] =2秒セルフタイマー表示、 [] =トリプルセルフタイマー表示、 [] =オートブラケット表示、 [] =TVダイ

	レクトダイヤル表示、 = A v ダイレクトダイヤル表示、 = T v 表示、 = A v 表示、 = 多重露出表示、LCD 照明あり(約10秒間照明)
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒(赤ランプ点滅、音、減算表示)、作動後解除可能、2秒セルフタイマー可能、トリプルセルフタイマー可能
ミラー	クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影(約4コマ/秒)、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示
露出計・測光範囲	TTL開放8分割測光、測光範囲50mm F1.4 ISO100 EV 0~20、中央重点測光、スポット測光可
露出補正	±4 EV (0.3 EV ごと設定可能) -2~+2 EV・0.3 EV ステップバーステップ表示有
オートブラケットング	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±0.3 EV ~ ±4 EV の範囲) 露出補正併用可、マニュアルブラケットング、ストロボ光のみのブラケットング可
メモリーロック	ボタン式(タイマー式10秒) シャッターボタン半押しで継続
ストロボ	直列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー14 (ISO100/m) 28mmレンズをカバー、同調速度1/250秒以下、日中シンクロ、低速シンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減機能、光量補正、光量比制御可能 ISO連動範囲=25~800
電源	6Vリチウムパック電池 [2CR5] 1個
電池消耗警告	バッテリーマーク 点灯(点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯)
ペンタックスファンクション	15項目設定可能
裏ぶた	交換可能
大きさ・質量[重さ]	152.0mm(幅)×95.5mm(高)×74.0mm(厚) 650g(ボディーのみ 電池別)
付属品	ホットシューカバーFD、レリーズソケットキャップFD、カメラストラップFD、アイカップFD、ファインダーキャップ

クォーツデイト仕様

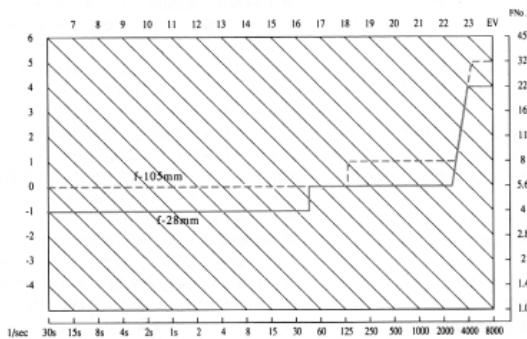
デイト機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー(西暦2019年まで、閏年は自動修正)
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示意にLCD表示、表示写し込み時 が2~3秒間点滅
データの種類の	①年・月・日、②日・時・分、③ (データ写し込み無し)、④月・日・年、⑤日・月・年
使用可能フィルム感度	ISO25~1600(感度自動セット)
デイト電源	C R 2025 (リチウム電池)
発光回数	約5000回

プログラム線図(ノーマルプログラム)



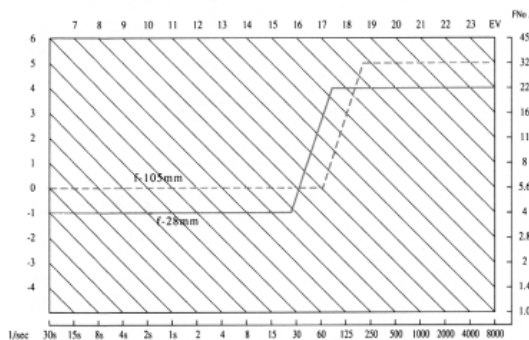
ISO 100 FA28~105mm F4~5.6の場合

プログラム線図(高速優先プログラム)



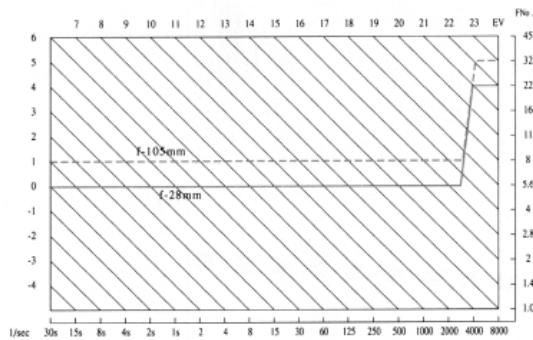
ISO 100 FA28~105mm F4~5.6の場合

プログラム線図(深度優先プログラム)



ISO 100 FA28~105mm F4~5.6の場合

プログラム線図(MTFプログラム)



ISO 100 FA28~105mm F4~5.6の場合

その他について

132

お問い合わせは次の各サービス窓口へ



ベントタツスフォーラム
(ショールーム・写真展・修理受付)
☎03(3348)2941(代)
〒163-0401
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル1階
(私書箱240号)



仙台サービスセンター
☎022(371)6663(代)
〒981-3133
仙台市泉区泉中央1-7-1
千代田生命泉中央駅ビル5階



東京サービスセンター
☎03(3571)5621(代)
〒104-0061
東京都中央区銀座西8-10
(土橋交差点交番並び)



新潟サービスセンター
☎025(224)8391(代)
〒951-8067
新潟市本町通7番町1153
新潟本町通ビル4階



札幌サービスセンター
☎011(612)3231(代)
〒060-0010
札幌市中央区
北10条西18-36
ベントタツス札幌ビル4階



横浜サービスセンター
☎045(232)5281(代)
〒231-0047
横浜市中区羽衣町2-7-10
日本生命関内ビル8階

その他について



静岡サービスセンター

☎054(255)6308(代)
〒420-0858
静岡市伝馬町24-2
住友建設ビル5階



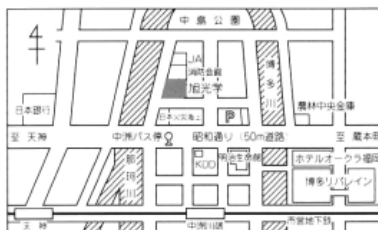
広島サービスセンター

☎082(234)5681(代)
〒733-0035
広島市西区南観音3-5-2
空港通りビル6階



名古屋サービスセンター

☎052(962)5331(代)
〒461-0001
名古屋市中区栄1-19-8



福岡サービスセンター

☎092(281)6868(代)
〒810-0802
福岡市博多区中洲中島町3-8
パールビル1階



大阪サービスセンター

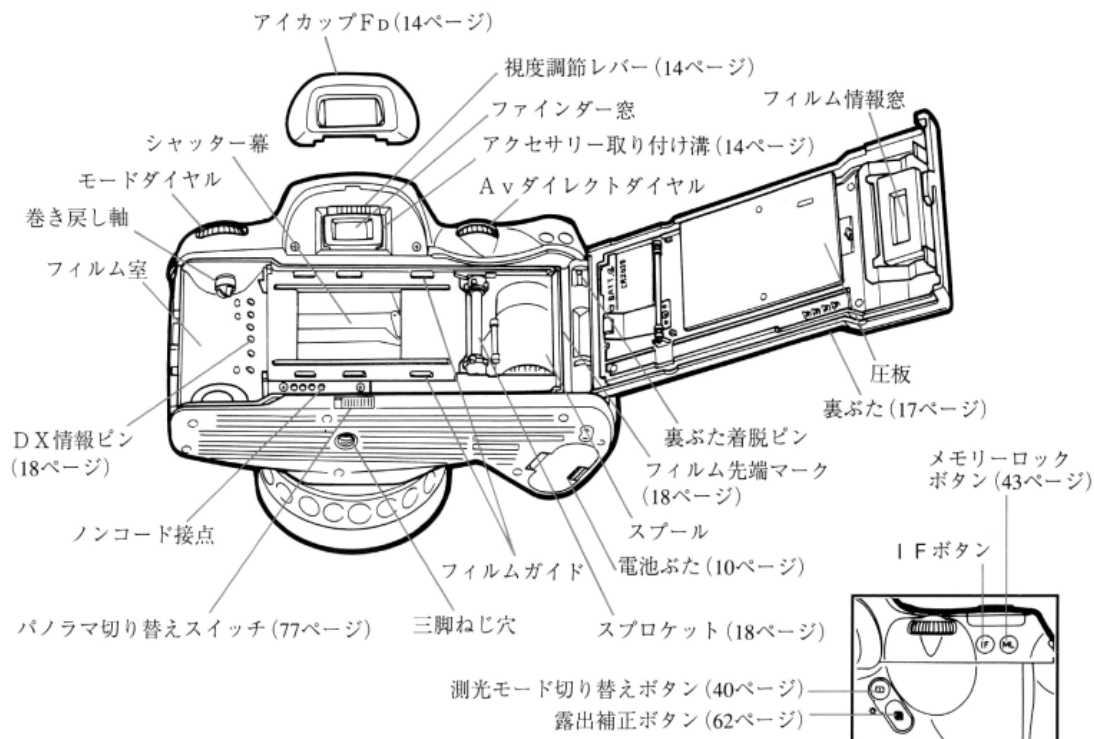
☎06(6271)7996(代)
〒542-0081
大阪市中央区南船場1-17-9
パールビル2階



お客様相談室

☎03(3572)6479
〒104-0061
東京都中央区銀座西8-10
(土曜文庫点交番並り)

各部の名称②



- ・旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
 - ・他社製品[レンズ・アクセサリ等]との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口へ直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただくと原因分析に役立ちます。
 2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
 3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
 - ・使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
 - ・当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
 - ・火災・天災・地震等による故障。
 - ・保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等)や手入れの不備(泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等)による故障。
 - ・保証書の添付のない場合。
 - ・販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
 4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
 5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能な場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
 6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。



旭光学工業株式会社

〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

ペンタックス販売株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

三宅坂ビル 3階 ☎03 (3580) 0336

☆この使用説明書には再生紙を使用しています。

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

07-0005